

**平成 30 年度 札幌市行政評価
外部評価報告書**

**平成 31 年（2019 年）1 月
札幌市行政評価委員会**

《 目 次 》

第1章 外部評価の概要	- 1 -
1 評価の目的と対象.....	- 1 -
2 評価対象の選定.....	- 1 -
3 評価の流れ.....	- 2 -
第2章 市民参加の取組（市民参加ワークショップ）	- 4 -
1 取組の概要.....	- 4 -
2 対象テーマの設定.....	- 4 -
3 開催日程.....	- 5 -
4 参加者.....	- 5 -
5 実施方法.....	- 5 -
6 実施結果とその活用.....	- 6 -
第3章 各施策及び関連事業の評価結果	- 7 -
1 総括コメント.....	- 7 -
2 「施策3-1 地域活動を活発化する環境づくり」及び「施策3-2 地域マネジメント の推進」のヒアリング結果.....	- 8 -
3 「施策8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」のヒアリング結果.....	- 14 -
4 局別評価対象施策・事業一覧.....	- 16 -
第4章 出資団体の取組に関する評価	- 17 -
1 団体の概要.....	- 17 -
2 当該団体への出資継続要否に関する検討経緯.....	- 17 -
3 団体所管局の考え（ヒアリング結果）.....	- 17 -
4 評価.....	- 18 -
行政評価委員会の委員構成	- 19 -
参考資料	- 20 -

第1章 外部評価の概要

1 評価の目的と対象

札幌市では、行政評価の客観性及び信頼性の確保や業務改善の更なる取組につなげることを目的に外部評価を実施している。外部評価は、市外部の有識者からなる行政評価委員会（以下「委員会」という。）が施策・事業を選定し、必要性、有効性、効率性などを意識した客観的な視点による評価を行う。外部評価と札幌市の事業の進め方の関係については図1のとおり。また、特に市民目線・市民感覚を踏まえる必要性が高いテーマについては、市民が直接参加する「市民参加の取組（ワークショップ）」を実施する。ワークショップの詳細については、第2章（P. 4～）のとおり。

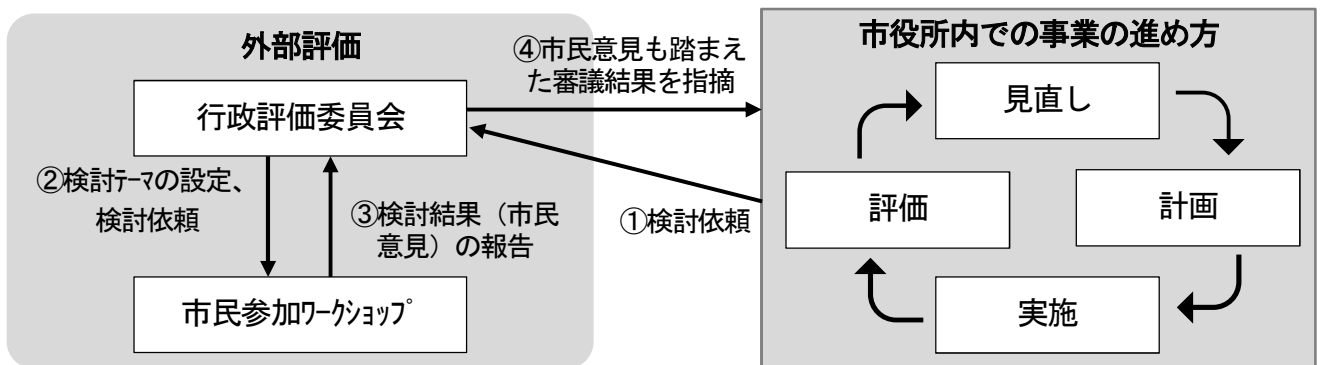


図1：外部評価と札幌市の事業の進め方の関係図

今年度の外部評価では、札幌市が平成29年度に実施した予算小事業とその上位目的である施策及び出資団体の取組を評価対象事項として評価を実施した。

2 評価対象の選定

(1) 施策・事業

委員会での議論の熟度を高めるため、委員会の合議により、以下の視点から、札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015に掲載している施策・事業のうち、3施策15事業を評価対象に選定した。評価対象と選定理由は表1のとおり。

<評価対象を選定するための視点>

- ① 特定の分野に偏ることなく、多様な分野から政策的なバランスを考慮して施策・事業を選定するため、近年（直近3か年）、行政評価の対象となっていない施策に着目し、優先的に今回の評価対象として検討を行う。
- ② 重点課題・施策の目的を踏まえ、その実現に関わりが深い事業の中から、事業規模や、事業の性質、事業成果の達成状況等を考慮の上、対象事業を選定する。
- ③ より効果的な評価とするために、選定は関連する複数の事業のまとまり（事業群）での評価も可能とする。
- ④ 行政評価委員会と連携して市民参加の取組（ワークショップ）を行うことから、市民生活と関わりの深い事業や市民との協働の要素が大きい事業等、市民目線・市民感覚で議論することが特に有意義と考えられる事業を含む分野（施策）にも配慮して選定する。

【表 1】 評価対象施策・事業と選定理由

評価対象	選定理由
施策：「施策 3－1 地域活動を活発化する環境づくり」 事業：町内会活動の支援の取組、まちづくり人材育成、地域課題解決のネットワーク構築、地域のスポーツ振興に関する 10 事業	地域活動の中心である町内会の担い手不足や、高齢化などの課題に対し、札幌市がどのような取組を行っているのか、また、その有効性について確認する必要があるため。
施策：「施策 3－2 地域マネジメントの推進」 事業：地域によるまちづくり推進の取組に関する 2 事業	
施策：「施策 8－3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」 事業：低炭素社会の実現に向けた、市民の意識啓発等に関する 3 事業	冬期間のエネルギー使用量が多い札幌市において、どのような環境負荷低減の取組を行っているのか、今後どのような取組を行うのか確認する必要があるため。

(2) 出資団体の取組に関する評価

平成 28 年度の行政評価委員会で指摘を行った、札幌市の出資団体である株式会社札幌リゾート開発公社の出資の在り方については、平成 30 年度の行政評価委員会にて検討結果を報告することとしていた。その検討結果について、点検・評価を行った。

出資団体の取組に関する評価については、第 4 章（P. 17～）のとおり。

3 評価の流れ

委員会は、評価対象事業を選定した後、市が行った自己評価の事業評価調書等に基づき、事業所管局へのヒアリング（聞き取り調査）を実施し、取組状況を確認した。さらに、施策・事業については、市民参加の取組（ワークショップ）の結果から、市民意見を把握した。

ヒアリングにおいて論点となった事項やワークショップで出た市民意見等を基に、事業所管局への確認を経て、委員会の合議により最終的な評価結果をまとめた。

《行政評価委員会の活動経過》

平成30年5月21日	第1回行政評価委員会（評価対象施策の選定等）
6月22日	第2回行政評価委員会（評価対象事業及び市民参加の取組の対象テーマ選定等）
8月9日	ヒアリング 「施策3-1 地域活動を活発化する環境づくり」 「施策3-2 地域マネジメントの推進」 「施策8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」 「(株)札幌リゾート開発公社の出資団体としての在り方の検討結果について」
8月25日	（参考）第1回市民参加ワークショップ（課題の抽出）
9月22日	（参考）第2回市民参加ワークショップ（課題解決に向けた方策の検討）
11月5日	第3回行政評価委員会（指摘事項案等の協議）
12月3日	第4回行政評価委員会（報告書の検討）

第2章 市民参加の取組（市民参加ワークショップ）

1 取組の概要

委員会における評価対象項目のうち、特に市民目線や市民感覚を踏まえる必要性が高いと判断し、委員会が選定したテーマ（次節参照）について、市民参加型のワークショップ[※]が実施され、市民意見の聴取が行われた。

一般的に、ワークショップの実施にあたっては、対象テーマに関連する現在の市の取組について参加者の理解を深めた上で、話し合いの時間を長く取り活発な議論を行うことが求められる。そのために、参加者に事前に対象テーマに関連する市の取組内容について資料を確認していただき、あらかじめ「どのような取組・アイデアがあるか」を検討していただいた上で、ワークショップにご参加いただいた。

※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解し合いながら、課題や方向性を見出す参加型の会議。

2 対象テーマの設定

対象テーマは、委員会の合議により、今年度の評価対象の中から次のとおり設定した。

テーマ：「市民・企業によるCO₂削減の取組の推進」
（「施策8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」関係）

<設定理由>

地球温暖化が原因の一つと言われている大雨による洪水被害、猛暑が日本各地で起こっており、世界でも異常気象による様々な災害が生じている。

地球温暖化の主な原因は、二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスの増加であるとされており、CO₂をなるべく出さない社会を実現することは、世界共通の目標である。

札幌市では「環境首都・札幌」を掲げ、2030年にはCO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を1990年比で25%削減するという目標を設定している。

また、札幌市は国内の他の都市と比べ、市民生活・企業活動における冬期間のエネルギー使用量が多いことから、CO₂排出削減のためには、市民・企業による取組が不可欠である。

これらの背景を踏まえて、委員会では、市民参加ワークショップで検討していただくテーマとして「市民・企業によるCO₂削減の取組の推進」を設定した。

3 開催日程

日時	議論の目的
平成 30 年 8 月 25 日 (土) 13:30~17:15	市民・企業による CO ₂ 削減の課題についてご意見をいただき、整理する。
平成 30 年 9 月 22 日 (土) 13:30~17:15	第 1 回のワークショップで提案いただいた課題解決に向け、「どのような取組を行うべきか」ご意見をいただく。

4 参加者

参加者の募集にあたっては、無作為に抽出した 18 歳以上の市民 3,000 名に参加案内を送付したほか、例年、若い世代の参加が比較的少ないことから、北海道科学大学の協力を得て、学生の参加を募り、合わせて 31 名*の市民に参加いただいた。性別・年代別の内訳は、表 2 のとおり。

※いずれかの回に参加いただいた方

【表 2】ワークショップ参加者内訳（性別・年代別）（単位：人）

	年 代							
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合 計
第 1 回目								
男性	0	7	1	0	4	2	5	19
女性	0	0	1	2	2	4	3	12
合計	0	7	2	2	6	6	8	31
第 2 回目								
男性	0	5	1	0	2	2	5	15
女性	0	0	1	2	2	3	3	11
合計	0	5	2	2	4	5	8	26

5 実施方法

ワークショップは、参加者が関心のあるテーマごとにグループ分けを行った（グループ：①電気・電化製品、②暖房・冷房・家屋の断熱化、③交通）。進行は、メインファシリテーター（全体の司会進行を行うまとめ役）を 1 名、市民議論を円滑に進めるためのテーブルファシリテーター（進行役）を各テーブルに 1 名ずつ配置して行った。

なお、初対面の市民同士が意見交換しやすくなるような議論の場づくりや議事の中立性を高めるため、ファシリテーター業務等については、市外部の専門業者に委託した。

6 実施結果とその活用

各テーブルにおける議論の結果、市民目線から多様な意見や提案が導き出された（主な市民意見は表3のとおり）。

各グループからは独自の取組が挙げられる一方で、共通の課題が多く出され、委員会は、これらの市民意見を踏まえて、「施策8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」に関する指摘（P.15～）の検討を行った。

なお、ワークショップの詳細については、巻末参考資料「市民参加の取組（ワークショップ）報告書」のとおり。

【表3】ワークショップにおける主な市民意見の内容

内 容
<ul style="list-style-type: none">・ CO₂削減に対する、市民一人ひとりの意識改革がもっとも大切。・ 暖房や断熱に関する、生活の知恵を交換し合える学びの場をつくるべき。・ 暖房に対する市民の意識が低いことから、意識改革を促すPRが重要。・ 市民だけでなく、企業も温暖化に対する責任を持つべき。・ 暖房の温度が高いことが普通だと思っている。市民意識が低い。・ 室温が高いなかで、薄着で生活をしている。・ CO₂削減に関する行政のPR不足・ 北海道胆振東部地震の経験を踏まえ、防災、省エネのPRを行うべき。・ SNSや動画サイトを利用した広告活動を進めていくべき。・ 公共交通機関の利用を促すため、利用の付加価値をつける。・ さわやかノーカーデーを普及させるため、プレミアムフライデーなどに合わせ、企業と連携する。

第3章 各施策及び関連事業の評価結果

1 総括コメント

- (1) 「施策3-1 地域活動を活発化する環境づくり」
- (2) 「施策3-2 地域マネジメントの推進」

本施策は、「地域の課題を地域で解決できる街づくり」を目指し、地域活動の担い手の育成や、様々な活動主体の連携の促進等を行うものである。

地域活動の主体である町内会については、加入率の低下と役員の高齢化等により、運営の継続が今後困難になっていく地域が多いものと推測される。町内会は、加入は任意であるが、地域を支える重要な役割を持った組織であり、その存続は、行政運営にも少なからず影響を与えられられる。

今後は、「町内会の維持」を重要課題と認識し、若い世代を取り込むための取組や、より効果的な情報発信方法の検討などについて、新しい視点でこれまで以上に力を入れていく必要がある。

- (3) 「施策8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」

本施策は、「エネルギー効率の高い持続可能な街の実現」を目指し、市民・企業の環境意識の醸成を図ることで、環境に優しいライフスタイルへの転換や環境負荷を低減する行動の促進等を行うものである。

札幌市では、市内の二酸化炭素（CO₂）排出量について、「2030年時点で25%削減（1990年比）」することを目標に掲げ、温暖化対策推進計画を策定し、省エネ・節電を呼びかけるなど、市民意識を啓発するための様々な事業を行っている。札幌市は他都市に比べ冬期のエネルギー消費量が多く、CO₂の削減目標を達成するためには暖房エネルギーの抑制が欠かせないが、そのような認識が市民や企業に十分浸透しているとは言えず、環境意識の醸成については更なる取組の余地があると考えられる。

2 「施策 3-1 地域活動を活発化する環境づくり」及び「施策 3-2 地域マネジメントの推進」のヒアリング結果

(1) 施策の概要

札幌市まちづくり戦略ビジョンに掲げる政策分野「暮らし・コミュニティ」では、人口減少や少子高齢化の進行に伴う高齢単身世帯の増加や、貧困等の様々な要因による社会的孤立の顕在化などに対応するため、地域でのつながりや支え合いによる共助の意識の醸成と、これらを補完する地域社会の仕組みづくりに取り組むこととしている。また、複雑・多様化する地域課題の解決に向けて、まちづくり活動の担い手の育成や活動主体同士の連携などによる地域資源の活用を通じて、地域マネジメントの推進にも取り組むこととしている。

このうち、今年度の外部評価の対象とした事項は、町内会活動に関する1事業、活動の担い手育成に関する1事業、住民組織助成金に関する1事業、活動の場整備に関する1事業、まちづくり人材に関する1事業、まちづくり活動団体の情報提供システムに関する1事業、地域の課題解決のためのネットワーク構築に関する1事業、地域のスポーツ振興に関する3事業、区や地域のまちづくり活動に関する1事業、まちづくりセンターに関する1事業のあわせて12事業で、平成29年度の決算総額は1,053,937千円である。

【①-1 施策情報】

政策分野	暮らし・コミュニティ			
政策目標	3 地域の課題を地域の力で解決する街			
施策	1 地域活動を活発化する環境づくり			
施策の考え	人と人のつながりによる地域コミュニティの形成を促進するため、地域のまちづくり活動の担い手となる人材を発掘・育成する。さらに、様々な活動主体同士の連携を促進し、相乗効果による活動の活発化を図るとともに、市民の居場所・活動拠点づくりを推進する。			
成果指標	指標	現状値(H26)	目標値(H31)	目標値(H34)
	町内会加入率	70.1%	75.0%	75.0%
	市内に主たる事務所を置くNPO認証法人数	914団体	1,123団体	1,300団体
評価対象事業の 予算・決算額	平成29年度予算額	686,100千円	平成29年度決算額	623,836千円

【①-2 評価対象事業】

事業名	事業の概要	29年度予算	29年度決算
町内会活動総合支援事業	町内会活動を多面的かつ継続的に支援するため、メディアを活用した加入啓発や不動産関連団体などとの連携に取り組むほか、町内会自らが行う加入促進などに対する取組などを支援する。	31,000千円	31,892千円

事業名	事業の概要	29年度予算	29年度決算
地域まちづくり人材育成事業	様々な地域課題の解決を図るため、まちづくり活動を進める手法を学ぶセミナー、ワークショップ、実践活動の体験等を行うとともに、地域課題の解決に必要なスキルを持つ人材を育成するプログラムを実施する。	6,100千円	6,037千円
まちづくり活動団体情報提供システム整備・活用事業	市民がまちづくり活動に関する情報を手軽に入手し、よりいっそう活動に参加できるよう、市民まちづくり活動への理解を深められるような情報コンテンツなどを作成・提供する。	2,500千円	2,453千円
地域課題解決のためのネットワーク構築事業	市民力の結集による地域課題の解決に向け、NPOと町内会などが協働して実施する事業に対して財政的支援を実施するほか、NPOを町内会等へ派遣して地域との連携を図る。	14,000千円	7,391千円
次世代の活動の担い手育成事業	次世代のまちづくり活動の担い手育成のため、初めて地域活動に参加していく小学生から、社会人デビューを控えた大学生・若者までを対象としたまちづくり活動への参加機会を拡大する。	6,000千円	5,997千円
住民組織助成事業	地域住民相互の連帯感の醸成を図り、心のふれあう温かい地域社会の形成を支援するため、札幌市内における町内会等住民組織の自主的な運営や活動費用の一部を助成金として交付する。	218,000千円	216,326千円
地域活動の場整備支援事業	地域課題の解決に向けた地域のまちづくり活動を活性化させる企画提案を募集し、提案が採択された市民グループに施設改修などのハード整備を対象とした補助金を交付する。	60,000千円	12,792千円
ファイターズ屋内練習場市民開放事業	北海道日本ハムファイターズの屋内練習場を市民開放し、スポーツの振興を図る。	2,600千円	2,072千円
学校開放事業	小中学校の体育施設を市民へ開放し、身近なスポーツ活動の場を市民へ提供する。	343,000千円	336,557千円
オリンピックズキャラバン事業	スポーツを始めるきっかけづくりや町内会等の地域諸団体の活性化につなげるため、地域で開催されるスポーツイベントや体験会に元オリンピック選手等を派遣する。	2,900千円	2,319千円

【②-1 施策情報】

政策分野	暮らし・コミュニティ			
政策目標	3 地域の課題を地域の力で解決する街			
施策	2 地域マネジメントの推進			
施策の考え	市民が主体的に取り組む地域活動を支援するため、町内会を始めとした地域の様々な活動主体間のネットワークの構築に向けたまちづくりセンターなどによる支援・調整機能を強化する。また、幅広い市民、団体が参加する区民協議会等の活動の活発化を図るとともに、地域の特性に合わせた課題解決への支援などにより、地域マネジメントを推進する。			
評価対象事業の 予算・決算額	平成 29 年度予算額	512,000 千円	平成 29 年度決算額	430,101 千円

【②-2 評価対象事業】

事業名	事業の概要	29 年度予算	29 年度決算
未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業	区や地域の特性を活かしたまちづくり活動を推進するため、地域課題の解決やネットワークの構築など、市民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、「地域まちづくりビジョン」を策定した地域に対し、その実現に必要な活動を支援する。	422,000 千円	345,004 千円
まちづくりセンター地域自主運営化推進事業	地域が主体的にまちづくりを行うことができるよう、地域活動団体による自主運営まちづくりセンターの運営、自主運営化に向けた地域の検討を支援する。	90,000 千円	85,097 千円

(2) 指摘事項

No.1 町内会の維持にかかる実施手法の提示

札幌市では、地域活動の中核を担う町内会の担い手不足に対応するため、町内会の加入促進啓発、町内会のニーズや希望に合わせた講座の開催といった取組を行っているとのことであった。しかし、町内会の加入率は低下傾向にあり、町内会役員の高齢化が問題となっていることから、今後、町内会の運営を継続していくことが難しくなっていく地域も出てくるものと思われる。

町内会は、加入は任意であるが、地域を支える重要な組織であり、行政にとっても欠かせない存在であると考えられる。

町内会の維持に向けては、幅広い世代の参加を促すため、これまで札幌市が行ってきた取組を続けるだけでなく、若い世代が高い関心を持つ SNS を活用するなど、新しい取組の実施手法を考えていく必要があると思われる。

については、町内会に関わる事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
1	施策全般 (町内会関連)	町内会の維持に向け、SNS の活用といった若い世代を取り込むための情報発信の仕組みづくりを支援し、その仕組みを取り入れたモデルエリアの設置などを検討すること。	市民自治推進室

No.2 効果的な広報の実施

札幌市では、町内会活動を支援する様々な事業を行っており、その取組内容をまとめた冊子の作成や活動成果のホームページ等への掲載などにより、各単位町内会や市民に対し広報を行っているとの説明があった。しかし、作成した冊子は町内への周知のために各単位町内会長へ送付しているものの、札幌市の意図が十分に伝わらず、情報が地域住民に広く届かない場合がある。また、ホームページへの掲載は、一般的に片方向の情報発信であり、掲載されている事実を知らなければ情報が伝わらないという側面がある。

これらの状況を踏まえると、市民向けに町内会関連の取組を広報していく上では、目的や対象を明確にし、効果的な広報を行う必要がある。

については、町内会に関わる事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
2	施策全般 (町内会関連)	町内会に関する取組を行うにあたっては、取組の目的を明確にし、誰に何をどのような方法で伝えるかを意識した、効果的な広報を実施すること。	市民自治推進室

No.3 住民組織助成金の在り方の検討

『住民組織助成事業』では、地域住民相互の連帯感の醸成、心の触れ合う温かい近隣社会の形成を目的に、申請のあった単位町内会や連合町内会等に助成金を交付しており、単位町内会の平均的な予算に占める助成金の割合は、3%程度であるとの説明があった。

当該事業では、約2,200の単位町内会に広く薄く助成金を交付しており、また、町内会の中には当該助成金の意図について十分に理解できていないところもあると思われ、このような状況では、助成金の効果が出にくいものと推察される。

助成金を交付するにあたっては、町内会の維持や活性化につながる特定の取組に助成するなど、助成金の在り方の見直しが必要であると考える。

については、住民組織助成事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
3	住民組織助成事業	町内会の組織力や加入率向上、ひいては町内会の維持につながるような、助成金の在り方について検討すること。	市民自治推進室

No.4 申請者と所有者が異なる場合の法的妥当性の整理

『地域活動の場整備支援事業』では、市民グループから、まちづくり活動を活性化させる企画提案を募集し、町内会館や空き家の改修などの活動の場の整備に対し補助金を交付しているとの説明があった。

申請者は5名以上のグループが条件であるとのことだが、施設改修については、個人所有の建物も対象となっており、申請の内容によっては、申請者と建物の所有者（受益者）が異なる場合がある。このような場合、所有者が亡くなり建物が相続されるなどした際には、活動の継続や改修による利益の帰属などについて問題が生じる可能性が考えられる。

については、地域活動の場整備支援事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
4	地域活動の場整備支援事業	事業の実施に際しては、事業の申請者と改修の対象となる建物所有者（受益者）が異なる場合の法的な妥当性を整理すること。	市民自治推進室

No.5 コーディネーター育成・活用に向けた取組

札幌市では、『地域まちづくり人材育成事業』として、地域課題の解決に必要なスキルを持った人材の育成を目的とした『コーディネーター等育成プログラム』に取り組んでいることが報告された。取組の内容は毎年改善されており、昨年度は実践派遣を体験する機会を提供することで、プログラムの受講者がコーディネーターとして活躍しやすくなるよう支援を行っているとのことであった。

このような人材を育成し、その活動を支援することは、市民活動団体が抱える課題を解決し、活動を活性化していく上で重要であり、本施策は今後もっと強化していくべきであると考えられるが、現状のようにコーディネーターが無償のボランティアとして活動を続けることは、仕事の性質や難度から考えると現実的ではないと考えられる。

については、コーディネーターの育成・活用に関し、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
5	地域まちづくり人材育成事業	コーディネーターの育成・活用に向けては、派遣を有償化する仕組みづくりなど、取組を強化する手法について検討すること。	市民自治推進室

No.6 まちづくりセンターの運営方針の明示

札幌市では、まちづくりセンターの運営を地域住民に委ね、地域の創意工夫を生かしたまちづくりを行ってもらうことを目的に、平成20年度から『まちづくりセンター地域自主運営化推進事業』を行っていることが報告された。その結果、平成30年度時点で、87か所あるまちづくりセンターの内、8か所で自主運営が行われているとのことであった。

まちづくりセンターの運営方法は、町内会などの地域コミュニティの在り方に一定の影響を与えるものと考えられ、地域住民が主体のまちづくりを目指す上では、その運営を住民側に移していくことが自然な流れであると考えられる。指摘No.1で取り上げた町内会活動の持続性を確保していくためにも、今後は地域の自主性を育てるスキームが必要であり、まちづくりセンターの自主運営化はそれに資する可能性があると考えられる。その上で、行政は地域の要望を聞きつつ、必要な関与をしていくことが望ましい。

については、これらのことを踏まえた上で、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
6	まちづくりセンター地域自主運営化推進事業	地域の自主性を育て、住民主体のまちづくりを実現していくために、まちづくりセンターの運営方法が今後どうあるべきかについて、関連施策との連動も考慮した上で、方針を明示し、それに沿った取組を検討すること。	市民自治推進室

3 「施策8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」のヒアリング結果

(1) 施策の概要

札幌市まちづくり戦略ビジョンに掲げる政策分野「低炭素社会・エネルギー転換」では、地球規模での温暖化の進行や東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、今後、低炭素社会と脱原発依存社会を実現し、環境負荷の少ない低炭素型の都市構造を形成していくことが重要であるとしている。また、新たな技術などを取り入れたエネルギー政策をまちづくりの中心に位置付け、エネルギー転換や効率的なエネルギー利用を進めていくことが、エネルギーの大消費地である札幌にとってますます重要になるとしている。

「低炭素社会・エネルギー転換」の施策の一つである「市民・企業による環境負荷低減の取組の推進」のうち、今年度の外部評価の対象とした事項は、温暖化対策推進計画の進行管理に関わる1事業、市民に対する省エネの普及啓発に関する2事業のあわせて3事業で、平成29年度の決算総額で48,935千円である。

【① 施策情報】

政策分野	低炭素社会・エネルギー転換			
政策目標	8 エネルギー効率の高い持続可能な街			
施策	3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進			
施策の考え	地球温暖化対策などの環境負荷を低減する取組の推進により、社会全体でのエネルギー消費量の低減を図る。そのため、公共施設での先導的な取組や環境教育の推進などにより、市民・企業の環境意識の醸成・向上を図ることで、環境に優しいライフスタイルへの転換や環境負荷を低減する行動などを促進する。			
評価対象事業の 予算・決算額	平成29年度予算額	61,700千円	平成29年度決算額	48,935千円

【② 評価対象事業】

事業名	事業の概要	29年度予算	29年度決算
温暖化対策推進事業	市内における温室効果ガス排出量の算定や、市民・事業者に対する意識調査の実施など、札幌市温暖化対策推進計画の進行管理を行う。	4,700千円	2,137千円
さっぽろスマートライフ推進事業	低炭素社会を実現するため、ムダなく、かしこく、省エネ・節電を楽しむさっぽろスマートライフが定着した街を目指して、うちエコ診断など各種取組を実施し、市民に対する普及啓発を行う。	37,000千円	33,667千円
総合的環境教育推進事業	次世代を担う子どもたちに対し、環境保全についての意識の醸成及び行動の促進を図るため、札幌市環境教育基本方針に基づき、エコライフレポートなど子どもを中心とした環境教育を進める。	20,000千円	13,131千円

(2) 指摘事項

No.7 環境負荷低減に向けた効果的な意識啓発

札幌市では、市内のCO₂排出量について、『2030年時点で25%削減（1990年比）』することを目標に掲げ、温暖化対策推進計画を策定し、省エネ・節電を呼びかけるなど、市民意識を啓発するための様々な事業を行っていることが報告された。また、札幌市は家庭部門からのCO₂排出量が他の政令指定都市に比べて多いことや、特に冬期における暖房エネルギーの消費量が多いことも報告された。

以上より、CO₂の削減目標を達成するためには、暖房エネルギーの消費削減が欠かせないものと考えられるが、夏期の冷房設定温度（28℃）に比べて、冬期の暖房設定温度（20℃）が市民に定着しているとは言えず、暖房利用の抑制や工夫を促進するためには、より効果的な市民意識の啓発が必要と考えられる。

については、CO₂削減をより一層促進させるために、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
7	温暖化対策推進事業、 さっぽろスマートライフ推進事業	省エネに関する市民意識の啓発については、まずは総エネルギー消費量に占める割合が最も大きい冬期の暖房エネルギーの抑制に関する啓発に優先的に取り組むこと。例えば、市民が取り組みやすいようにキャッチコピーや室内温度の目標値を設定したり、教育現場を通じた啓発を行うなど、市民に伝わりやすい取組を行うこと。	環境都市推進部

4 局別評価対象施策・事業一覧

対象局	施策/事業	指摘No.
市民文化局	3-1 地域活動を活発化する環境づくり	1、2
	町内会活動総合支援事業	
	地域まちづくり人材育成事業	5
	まちづくり活動団体情報提供システム整備・活用事業	
	地域課題解決のためのネットワーク構築事業	
	次世代の活動の担い手育成事業	
	住民組織助成事業	3
	地域活動の場整備支援事業	4
	3-2 地域マネジメントの推進	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業	
まちづくりセンター地域自主運営化推進事業	6	
スポーツ局	3-1 地域活動を活発化する環境づくり	
	ファイターズ屋内練習場市民開放事業	
	学校開放事業	
	オリンピックズキャラバン事業	
環境局	8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進	
	温暖化対策推進事業	7
	さっぽろスマートライフ推進事業	
	総合的環境教育推進事業	

第4章 出資団体の取組に関する評価

札幌市の出資団体である株式会社札幌リゾート開発公社については、平成28年度の行政評価委員会において、「団体への出資の在り方について平成29年度中に結論を出し、平成30年度の行政評価委員会に報告すること」との指摘を行っている。

ここでは、当該指摘を踏まえ、団体所管局からのヒアリングをもとに、当該団体への出資の在り方に関する検討結果について、点検・評価を行う。

1 団体の概要

札幌リゾート開発公社の概要を表4に示す。

【表4】札幌リゾート開発公社の概要（平成30年4月時点）

代表者	代表取締役社長（常勤）大谷内 則夫
基本財産	1,020,000 千円
設立年月日	昭和48年（1973年）6月28日
出資年月日	昭和48年（1973年）12月4日
札幌市出資額	200,000 千円（出資割合 19.6%）
主な出資者	日本政策投資銀行（14.7%）、JTB（11.5%） 日本トラスティ・サービス信託銀行（5.8%）
主要事業	札幌国際スキー場事業（収入の8割を占める） ていねプールの管理・運営 豊平峡電気自動車・レストハウス事業 フッズスノーエリア索道・コースの管理

2 当該団体への出資継続要否に関する検討経緯

- (1) 平成16年度の札幌市出資団体点検評価委員会において、「スキー場運営の担い手については、引き続き当該団体が担うことが妥当」としながらも、「将来的には民間事業者の活用も含めて検討」するよう指摘を受ける。
- (2) 平成18年度の札幌市出資団体点検評価委員会において、「事業の担い手について、民間事業者も視野に入れて積極的に検討することが必要」との指摘を受ける。
- (3) 「札幌市出資団体の在り方に関する基本方針（平成27年度）」において「取組が未達成の団体」としてリストアップされる。
- (4) 平成28年度の行政評価委員会において、「団体への出資の在り方について平成29年度中に結論を出し、平成30年度の行政評価委員会に報告すること」と指摘を受ける。

3 団体所管局の考え（ヒアリング結果）

札幌リゾート開発公社への出資の在り方に関する検討結果について、当該団体を所管する経済観光局にヒアリングを行った。結果は以下のとおり。

(経済観光局の見解)

- ・札幌リゾート開発公社は、『札幌市観光まちづくりプラン』や『定山溪観光魅力アップ構想』等に掲げた政策目標の実現に密接に関連している。
- ・特に定山溪地域の振興に取り組んで行くに当たっては、営利目的の民間企業ではなく、出資団体が行政の補完代行機能を果たしていくことで、市としても確実かつ円滑な事業執行ができるものと考えている。現在、本市と札幌リゾート開発公社、定山溪観光協会の3者が協力して定山溪振興を図っているところである。
- ・札幌リゾート開発公社を活用した具体的な取組としては、スキー利用料金の市民割引制度の実施、豊平峡や八剣山などの定山溪エリアとの周遊促進、無料連絡バスの運行などを行っているところ。今後は、グリーンシーズンの活用や、ウィンタースポーツのアスリート育成を目的とした取組などを行っていきたいと考えている。
- ・一方、仮に出資を引き揚げ、スキー場の運営が民間事業者に委ねられた場合、他都市の事例に鑑みると、利用料金が高騰したり、地域との連携が担保できないなど、市民サービスの低下が懸念される。札幌リゾート開発公社には、出資団体として利益を市民に還元（安価な料金設定）することで、市民が気軽にウィンタースポーツを楽しめる環境を提供する役割も求められている。
- ・以上のことから、本市としては札幌リゾート開発公社への出資を当面継続することとし、今後の設備投資の状況や、札幌国際スキー場の定山溪振興への寄与度などを定量的に評価しながら、然るべき時期に出資継続の必要性を改めて判断していきたい。

4 評価

本件について、行政評価委員会として次のとおり評価する。

評価：(株)札幌リゾート開発公社への出資の在り方について

- 定山溪地域及び本市の観光振興に果たす公社の役割や、出資を引き揚げた場合のデメリットなどを総合的に勘案すると、当該団体への出資継続による公的関与が必要と判断したことについては、一定の理解ができる。
- また、札幌国際スキー場自体は良い資源であり、出資継続の判断に市民は納得するものと思われる。
- 一方、本件については10年以上前から検討を指示されていることであるため、「当面出資を継続する」という半端な意思決定ではなく、現状把握し得る条件のもとで、出資継続の可否を明確に判断するべきである。

行政評価委員会の委員構成

委員長	いしい よしはる 石井 吉春	北海道大学公共政策大学院 特任教授
副委員長	かにえ あきら 蟹江 章	北海道大学大学院経済学研究科 教授
委員	かみおか ゆきこ 上岡 由紀子	上野・横山・渡 法律事務所 弁護士
委員	しのかわ きよひこ 篠河 清彦	篠河清彦公認会計士事務所 公認会計士・税理士
委員	よしだ さとこ 吉田 聡子	(株) 桐光クリエイティブ 代表取締役

参考資料

市民参加の取組（ワークショップ）報告書

平成 30 年度
札幌市行政評価 市民参加ワークショップ
報 告 書

平成 30 年 11 月

札幌市総務局

目 次

1 市民参加ワークショップの概要

- (1) 概要
 - ア 実施目的..... 1
 - イ 成果の活用..... 1
- (2) 検討テーマと設定の理由..... 2
- (3) 参加者
 - ア 参加者の募集方法..... 3
 - イ 参加人数・グループ（チーム）分け..... 3
- (4) 開催までの流れ..... 4

2 ワークショップで出された市民意見のまとめ

- (1) 第1回ワークショップ
 - ア 各グループで共通して出された意見..... 5
 - イ 各グループから出された意見..... 7
- (2) 第2回ワークショップ
 - ア 各グループで共通して出された意見..... 9
 - イ 各グループから出された意見..... 11

3 ワークショップの開催結果

- (1) 第1回ワークショップ
 - ア 開催概要..... 15
 - イ 第1回の目標..... 15
 - ウ プログラム..... 15
 - エ プログラムの内容..... 16
 - オ 当日の様子..... 17
 - カ 事前に寄せられた質問・札幌市からの回答..... 19
 - キ ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート.... 23
- (2) 第2回ワークショップ
 - ア 開催概要..... 30
 - イ 第2回の目標..... 30
 - ウ プログラム..... 30
 - エ プログラムの内容..... 31
 - オ 当日の様子..... 32

カ	第1回で寄せられた質問・札幌市からの回答.....	34
キ	ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート....	37
4	参加者アンケートの結果.....	44
5	使用した資料	
(1)	事前送付資料	
ア	検討テーマ説明資料.....	50
イ	事前質問・調査票.....	54
(2)	第1回ワークショップ資料	
ア	プログラム.....	55
イ	ガイダンス説明資料.....	57
ウ	アイデア書き出しシート（第2回までの宿題）.....	68
(3)	第2回ワークショップ資料	
ア	プログラム.....	69
イ	ガイダンス説明資料.....	71
ウ	参加者アンケート調査票.....	83

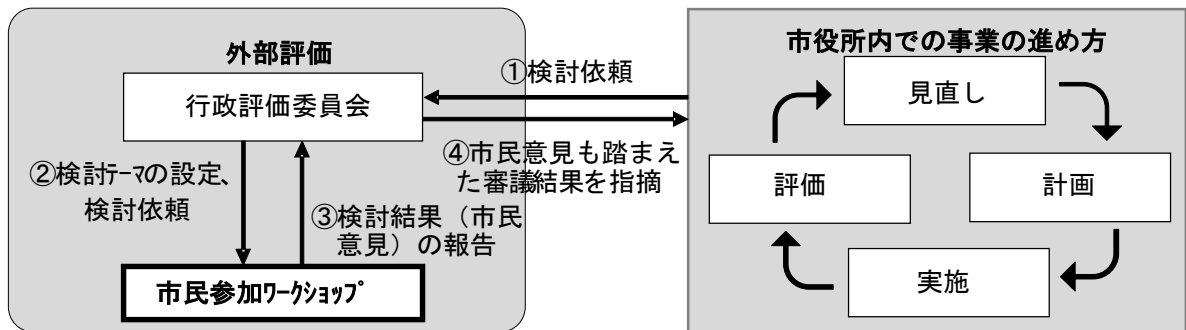
1 市民参加ワークショップの概要

(1) 概要

ア 実施目的

この市民参加ワークショップは、札幌市行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマについて、一般市民の方々からご意見をお聞きするために実施するものです。

■行政評価の仕組み



イ 成果の活用

市民参加ワークショップで出された意見は、行政評価委員会で審議に活用され、今後の事業の改善見直しに向けた検討材料の一つとしています。その結果、改善の方向性が明確になった事柄については、順次、改善の取組を行い、中長期的な取組が必要な事柄については、継続的な検討を行っていくこととしています。

(2) 検討テーマと設定の理由

市民・企業による CO₂ 削減の取組の推進

地球温暖化が原因の一つと言われている大雨による洪水被害、猛暑が日本各地で起こっており、世界でも異常気象によるさまざまな災害が生じています。

地球温暖化の主な原因は、二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスの増加であるとされており、CO₂をなるべく出さない社会を実現することは、世界共通の目標です。

札幌市では「環境首都・札幌」を掲げ、2030年にはCO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を1990年比で25%削減するという目標を設定しています。

また、札幌は国内の他の都市と比べ、市民生活・企業活動における冬期間のエネルギー使用量が多いことから、CO₂排出削減のためには、市民・企業による取組が不可欠です。

このような観点を踏まえ、札幌市行政評価委員会にて、市民ワークショップで検討いただくテーマとして設定しました。

(3) 参加者

ア 参加者の募集方法

参加者の募集にあたっては、無作為に抽出した 18 歳以上の市民 3,000 名に参加案内を送付したほか、例年、比較的若い世代の参加が少ないことから、環境に関する学部を有する北海道科学大学の協力を得て、学生の参加を募り、結果 31 名の市民に参加（いずれかの回に参加）いただきました。

■参加者募集の概要

○参加資格（以下の全てを満たす方）

- ・現在、札幌市に在住の方（転居等で札幌市外へ転出された方は応募できません）
- ・札幌市職員ではない方
- ・全 2 回のワークショップを通して出席できる方
- ・ワークショップは公開で行い、報道機関による撮影や傍聴者が会場に入ること、参加者個人が特定できる形で記録を公開する場合があることに承諾いただける方
- ・以上を踏まえて「参加承諾書」をご提出いただいた方

○参加の謝礼：クオカード 5,000 円分（全 2 回に参加いただいた方）

イ 参加人数・グループ（チーム）分け

本ワークショップでは「電気・電化製品」「暖房・冷房・家屋の断熱化」「交通」の 3 つのサブテーマを設定するとともに、各参加者には事前に「検討テーマ説明資料」のほか「希望サブテーマ・事前質問 調査票」を送付し、どのサブテーマについて話し合いたいのか、各参加者の希望をお聞きしました。

ワークショップではその希望を踏まえてグループ分けを行い、各サブテーマについて 2 グループ、計 6 グループに分かれてグループワークを行いました。

■参加者のグループ分け・各回の参加者数（名）

グループ名（サブテーマ）	性別		年代						各会参加者数	
	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	第1回	第2回
A（電気・電化製品）	4	1	2	-	-	1	-	2	5	3
B（電気・電化製品）	3	1	1	-	-	1	1	1	4	3
C（暖房・冷房・家屋の断熱化）	4	3	1	-	1	1	2	2	7	7
D（暖房・冷房・家屋の断熱化）	3	3	2	-	-	-	2	2	6	5
E（交通）	3	2	1	1	-	1	1	1	5	4
F（交通）	2	2	-	1	1	2	-	-	4	4
計	19	12	7	2	2	6	6	8	31	26

(4) 開催までの流れ

■参加者募集案内を市民に発送（平成30年7月12日（木））

■参加承諾書の返送締め切り（8月6日（月））

■第1回ワークショップ「市民・企業によるCO₂削減に関する課題の提起・抽出」

（8月25日（土））

（概要）

- ・ガイダンス、事前質問票にて寄せられた質問への回答
- ・グループワーク1：検討テーマに関する追加の疑問点を抽出
- ・グループワーク2：検討テーマ（サブテーマ）に関する課題を抽出し、親和図法（KJ法）にて整理
- ・グループワーク3：出された課題をシールアンケート法（シール投票）によって評価し、第2回で検討を進める「課題」を決定
- ・グループ発表を行い、全体で検討内容を共有

■第2回までの宿題「アイデア書き出しシート」への記入

- ・個々人で自分のグループの「課題」を解決するための「課題解決アイデア」を検討
- ・検討した「課題解決アイデア」は配布した「アイデア書き出しシート」に記入し、次回持参

■第2回ワークショップ「課題を解決するために、市民・企業・行政はどのような取組を行うべきか」（9月22日（土））

（概要）

- ・ガイダンス、前回の振り返り
- ・グループワーク1：「宿題」として考えてきた「課題解決アイデア」を出し合う
- ・グループワーク2：出された「課題解決アイデア」をシールアンケート法（シール投票）で評価し、以降、検討を深める「課題解決アイデア」を決定
- ・グループワーク3：「課題解決アイデア」実現に向け各主体が担うべき役割を検討
- ・グループワーク4：「課題解決アイデア」に「プロジェクト名」を命名

2 ワークショップで出された市民意見のまとめ

(1) 第1回ワークショップ「市民・企業によるCO₂削減に関する課題の提起・抽出」

ア 各グループで共通して出された意見

第1回では検討テーマについての課題を抽出・整理し、その後、整理した課題をシールアンケート法（シール投票）によって評価しました。

各グループ共通して挙げられた課題については、以下のとおり。

- (ア) 市民意識の低さ、市民意識の改革が課題
- (イ) CO₂削減のためにかかるコストの縮減が課題

(ア) 市民意識の低さ、市民意識の改革が課題

ほとんどのグループから、市民のCO₂削減に関する意識の低さ、意識を持つこと・意識を改革することの大切さが指摘されました。

グループ	出された意見（ポイント）
①A（電気・電化製品） （24頁参照）	・類似意見（付箋）をまとめた群（以降「島」と表記）として「罪悪感を持つ」「意識を持つ」が作成された。 ・特に島「罪悪感を持つ」では「電気・電化製品をつけっぱなしにしまおう」「冷蔵庫にもものを入れすぎ」「デパートの冷暖房が効きすぎ」「シャワーをマメに止めていない」など、電気・エネルギーを無駄に使用している現状が指摘された。
②B（電気・電化製品） （25頁参照）	・島「省エネに対する意識」が作成された。 ・その中では「冷蔵庫に物を詰めすぎ」「テレビをつけたまま寝落ちしてしまおう」といった行動、「センサー付き照明が普及すると良い」「オフタイマーを有効活用したい」「使わない電気を消す」といった対応が挙げられた。
③C（暖房・冷房・家屋の断熱化） （26頁参照）	・島「意識改革」が作成された。 ・その中では「歩く！」「公共交通を利用する」「エコ＝セコ（節約）を楽しむ」などの意識改革例が示された。
④D（暖房・冷房・家屋の断熱化） （27頁参照）	・島「市民意識が低い」が作成された。 ・その中では「暖房温度が高いのが普通と思っている」「冬でも薄着」という北海道ならではの意識が挙げられた。
⑤E（交通）	—
⑥F（交通） （29頁参照）	・島「意識」が作成された。 ・その中では「『近いところでも車』という意識の改革」「スーパーなどで車のエンジンつけっぱなし」など、車利用時の意識・行動と、「歩いてできることもある！」「意外に歩いても行ける！と気づくには？」と、徒歩に意識を向けることが指摘された。

(イ) CO₂削減のためにかかるコストが課題

全グループから CO₂削減、省エネにはコストがかかることが指摘されました。

グループ	出された意見（ポイント）
①A（電気・電化製品） （24 頁参照）	・ 島「お金」が作成された。 ・ その中では「省エネ電化製品は高い」「電化製品の引き取り料も高い」ため「電化製品（省エネ家電へ）の買い替えが進まない」ことが指摘されている。
②B（電気・電化製品） （25 頁参照）	・ 島「LED など新しい省エネの導入」が作成され、その中で「LED に買い替えた気持ちはある」が「LED が高い」ため「LED 電球、普及が進まない」状況が指摘された。
③C（暖房・冷房・家屋の断熱化） （26 頁参照）	・ 島「高気密高断熱のコストの高さ・難しさ」が作成された。 ・ その中で「優れた冷暖房は価格が高い」「家屋の断熱化・高気密住宅普及促進事業にはお金がかかる」「空気を循環するシステムにはコストがかかる」「断熱改修したくても資金が無い」「改修時には解体費用とリフォーム費用がかかる」など、特に断熱改修へのコストがかかることが多く指摘された。
④D（暖房・冷房・家屋の断熱化） （27 頁参照）	・ CO ₂ 削減のためのさまざまな取組に関して「取組にかかるコストと効果とのバランスが問題」ということが指摘された。
⑤E（交通） （28 頁参照）	・ 島「公共交通のデメリット」の中で公共交通の「交通費（運賃）が高い」ことが指摘された。
⑥F（交通） （29 頁参照）	・ 島「啓発（周知）」の中で「低炭素自動車の価格が高い」ことが指摘された。

イ 各グループから出された意見

下記では、各グループの検討内容の内、特徴的な意見を**太字**で、第2回ワークショップで検討することになった「課題」（テーマ）を**網掛け太字**で示しています。

①A（電気・電化製品）（24 頁参照）

特に、無駄に電気やエネルギーを使うことに対する「罪悪感」や「意識」と、省エネ家電等を購入する際にかかる「お金」との間に葛藤があることが指摘されました。

その結果、第2回で検討する課題は「**罪悪感とお金**」と設定されました。

また、電気に関する「市の取組」、省エネに関するさまざまな「情報」の発信の仕方やその内容についても指摘されたほか、**省エネと経済効率や快適さとのバランスを図る「哲学」が必要であることも指摘されています。**

②B（電気・電化製品）（25 頁参照）

「省エネのPR」「省エネに対する意識」を高めるために「目に見えるエコ」として「LED など新しい省エネ製品の導入」を進める必要があることが指摘されています。

これらの結果、第2回に検討する課題として「**家庭で省エネ家電の導入を進めやすくするには？**」が設定されました。

その他「電気の使い方改革」のためには「ライフスタイルの見直し」が必要であり、そのために「あえて不便な暮らし」をしてみることや、「古い家電の更新」の必要性などが指摘されました。

③C（暖房・冷房・家屋の断熱化）（26 頁参照）

「高気密高断熱のコストの高さ・難しさ」に対応し、主に冷暖房の使い方の工夫によって **CO₂削減、省エネを図るためには「意識改革」、特に「北海道の人ならではの考え方をリセット」することが大切ではないか**ということが指摘されています。

その結果、第2回で検討する課題として「**SAPPORO から始めるみらいエコ 寺子屋とか、教室とか…**」というキャッチフレーズが設定されました。

その他「再生可能エネルギー」の活用、「コンパクトシティなど大局的な検討が必要」であること、「『雪エコ』促進」と題して、雪氷熱や排熱の利用の促進についても課題として挙げられました。

④D（暖房・冷房・家屋の断熱化）（27 頁参照）

検討テーマである「暖房・冷房・家屋の断熱化」の「暖房」「冷房」「断熱」それぞれについて課題が出されたほか、「省電力」の必要性、「行政」の「予算が少なすぎる」ことや「PR 不足」、「高齢化への対応」が課題として指摘されました。そして、これら **CO₂削減に関する課題を考える際に「コストバランス（CO₂削減のためのコストとその効果の釣り合い、コストの高さ）が問題」であると指摘され、その対策案も出されました。**

こういった整理が行われた一方で「札幌市・雪国という特性を考えるべきではないか」という話し合いが行われた結果、**特に「暖房」に関する「市民意識が低い」ことに着目すべきと指**

摘され、その結果、第2回で検討する課題は「**暖房に対する市民意識の低さ**」と決定されました。

⑤E（交通）（28頁参照）

「自家用車の利用に依存」した生活であることを中心に課題出しが行われました。それに対応し、CO₂削減のためには「歩く環境づくり」「こまめなアイドリングストップ」の取組、「自転車のインフラ」整備、「車が無くても良い暮らし・カーシェア」の普及が必要であることが指摘されました。中でも最も必要なこととして「**車に代わる公共交通の課題解消**」が挙げられました。

「公共交通」に関しては、「デメリット」としてさまざまな「不便さ」が挙げられ、そういった「①不便さを解消」するための考え方の方向性が示されました。また合わせて「**②公共交通を使うことの価値づけができないか**」との論点が提起され、それを踏まえて第2回の検討課題として「**公共交通を使うことの価値づけ**」が設定されました。

そのほか「物流の効率が悪い」こともCO₂削減の障害になっているとの指摘もなされています。

⑥F（交通）（29頁参照）

「なぜ公共交通機関を使わずに自家用車を利用してしまうのか」を中心に話し合った結果、「公共交通（地下鉄など）」「自転車」と、交通の利用に関する「意識」の持ち方、「啓発（周知）」に関する意見が出されました。

そして、特に「啓発（周知）」の中に整理された「**さやわかノーカーデー**」が課題解決につながる潜在力を秘めた取組ではないかという意見から、第2回で検討する課題として「**CO₂を削減するためのノーカーデー等の取組に対する市民への周知不足**」が設定されました。

(2) 第2回ワークショップ「課題を解決するために、市民・企業・行政はどのような取組を行うべきか」

ア 各グループで共通して出された意見

第1回の最後にグループごとに検討を進める「課題」を決定しましたが、第2回では、それを解決するための取組アイデアを出し合って整理し、それらの中から最も課題解決に向けた効果が高いと思われる取組アイデアを抽出、それを実現するために誰がどのようなことを行うべきかを検討しました。

検討の中で、次のような事柄が共通の意見として出されています。

- (ア) 企業が何らかの役割を担う
- (イ) 町内会等地域が役割を担う
- (ウ) PR、情報発信・提供の必要性

(ア) 企業が何らかの役割を担う

検討の「お題」に「…市民・企業・行政は…」と「企業」が入っていたこともありますが、すべてのグループで企業が担うべき役割について指摘されています。

グループ	出された意見
①A (電気・電化製品) (38 頁参照)	・類似意見をまとめたグループ (以降「島」と表記)「個人の取組」の中で「(行政・企業に) モデルケース (実践・参考例) を示してほしい」という意見があった。
②B (電気・電化製品) (39 頁参照)	・島「PR」で「メーカーも PR すべき。我々も勉強すべき」「電気店のチラシで省エネ効果をもっと PR してほしい」という意見が出された。
③C (暖房・冷房・家屋の断熱化) (40 頁参照)	・島「わたしたちの意識を高める」の中で「企業も！」という項目が設けられた。その中で、企業が意識を高める必要性や、企業に対する指導の必要性が指摘された。 ・「活動の仕組みづくり」の中で企業の担う役割として「スポンサー」「主催・協力してもらおう」などが挙げられた。
④D (暖房・冷房・家屋の断熱化) (41 頁参照)	・島「それぞれの役割」の中で、「温暖化に対する責任を持つべき」「CO ₂ 削減の取組を行う」「CM 等で具体的な節電方法を伝える」「電気の効果的な使い方を PR する」「営利のみを考えず、環境を良くするよう考えて行動すべき」と「企業」の役割が指摘された。
⑤E (交通) (42 頁参照)	・島「企業への奨励・サポート」が設けられた。 ・その中で「企業等は公共交通で通勤する職員へ『エコ手当』を支給する」「企業への公共交通の利用義務化 (通勤・出張の○%は公共交通で)」といった取組アイデアが出された。
⑥F (交通) (43 頁参照)	・島「企業」(による取り組み) が設けられた。 ・その中で「『エコ通勤』の推進 (例: 会社単位でノーカーデー)」「公共交通を活用して物流する」「路面電車×運輸会社 (コラボ)」「会社による駐輪場の整備」といった取組アイデアが出された。

(イ) 町内会等地域が役割を担う

4つのグループが、町内会による取組について言及しています。

グループ	出された意見
①A (電気・電化製品) (38 頁参照)	・島「町内で発電・売電」が作成され「町内会単位で発電・売電」することにより「浮いたお金で町内をもっと便利に！」という取組アイデアが提案された。
②B (電気・電化製品)	—
③C (暖房・冷房・家屋の断熱化) (40 頁参照)	・町内会活動として CO ₂ 削減などを目指した「エコ町内会活動」を行うことが挙げられ、それにより「加入率も環境意識も向上！」という一石二鳥を狙えるのではないかという意見が出された。
④D (暖房・冷房・家屋の断熱化) (41 頁参照)	・島「それぞれの役割」の中で「(町内会参加者) 会合の度に節電・温暖化を話題にする」ことで啓発につながるのではないかという指摘がされた。
⑤E (交通)	—
⑥F (交通) (43 頁参照)	・島「市民」の中で「町内会などが、地域を巻き込む」というアイデアが出された。

(ウ) PR、情報発信・提供の必要性

3つのグループが、PR・情報発信の必要性やそのための工夫について述べています。

グループ	出された意見
①A (電気・電化製品) (38 頁参照)	・島「情報提供の評価と工夫」が作成され、それを中心に検討が行われた。(検討の概要については 11 頁に後述)
②B (電気・電化製品) (39 頁参照)	・「メーカーも PR すべき。我々も勉強すべき」「電気店のチラシで省エネ効果をもっと PR してほしい」という意見が出され、島「PR」にまとめられた。
③C (暖房・冷房・家屋の断熱化)	—
④D (暖房・冷房・家屋の断熱化) (41 頁参照)	・島「PR 方法」が作成され、それを中心に検討が行われた。(検討の概要については 12 頁に後述)
⑤E (交通)	—
⑥F (交通)	—

イ 各グループから出された意見

下記では、各グループの検討内容の内、特徴的な意見を**太字**で、課題を解決するための「課題解決プロジェクト」の名称を**網掛け太字**で示しています。

①A グループ：検討課題「罪悪感とお金」（38 頁参照）

CO₂削減の取組がなかなかできないという「罪悪感」と、CO₂削減に取り組もうとするときにかかってくる「お金」の問題を解決すべき課題として着目し検討を行いました。

その結果、特筆すべき**取組アイデア**として「**町内で発電・売電**」、「**エコ投資**」が出されました。

「町内で発電・売電」は「発電・売電目的の法人を町内会単位で作る」、そして「町内会単位で発電・売電。発電量や販売額を競い合う」ことによって「浮いたお金で町内をもっと便利に！」できるのではないかという、CO₂削減と地域環境等の向上を合わせて行おうというアイデアです。

「エコ投資」は「10年後 20年後、電気を使わない街」をつくるために行う「未来への投資」で「太陽光発電を信号・街灯などに使う仕組み」ができないかという指摘です。

上記のような**個々の地域等による取組**や「**家電の買替**」「**eco な活動への参加**」「**個人の取組**」例について、**札幌市や新聞・テレビ・ラジオ等が情報提供していくことでCO₂削減を進められるのではないか**ということで「情報提供の評価と工夫」について話し合われました。

その中では「高齢者に web サイトのリンクは難しい」（不親切ではないか）、「ネットを使えない人への対応」が必要であること、そして「リンクだけでなく紙やパンフを使い、回覧・配布で情報を広める」「年代別に媒体（メディア）を使い分けて情報発信する」（新聞・テレビ・ラジオ）目と耳の両方で、情報を得られるようにする」など、**行政がさまざまな媒体で情報発信していくことが大切であることが指摘されました。**

このような一連の検討内容を踏まえて、さまざまな CO₂削減の取組・工夫を情報提供してほしいという思いを込めて「**ヤル気はあるのわたしたち!!見せてください eco 工夫!!**」というプロジェクト名がつけられました。

②B グループ：検討課題「家庭で省エネ家電の導入を進めやすくするには？」（39 頁参照）

LED 電球の導入を中心に、省エネ家電の導入促進方策を検討しました。

最初に「省エネ・LED のメリットとデメリット」が整理されました。

それを踏まえつつ、**LED 電球など省エネ機器の導入促進には「一人一人の意識改革」が最も大切である**ということになりました。

そのためには「広告・ポスターなど」の掲示、「札幌市の広報や番組」での広報、ワークショップの第 1 回と第 2 回の間が発生した北海道胆振東部地震による「停電の経験をふまえて、防災×省エネ PR」（防災と合わせた省エネ PR を行う）といった提案がなされました。

また「自然に近い暮らし（太陽のリズムで生活）」「部分照明の検討」といった「**ライフスタイルの見直し**」を「**市民一人一人が家庭で**」行う必要性も指摘されています。

また「PR」や「導入コストを下げる工夫」の必要性、また「エコポイント制度」や「有料ゴミ袋の値上げ→省エネ製品の導入補助」により CO₂削減とゴミの減量の「一石二鳥」が図れ

るのではないかというアイデアも出されました。

このような検討の結果、「市民一人一人の意識改革」を行うためのプロジェクト名として「**今こそ始める SAPPORO 電気の使い方大改革プロジェクト**」が提案されました。

③C グループ：検討課題「SAPPORO から始めるみらいエコ 寺子屋とか、教室とか…」（40 頁参照）

第1回では検討テーマ「冷房・暖房・家屋の断熱化」を踏まえて「SAPPORO から始めるみらいエコ 寺子屋とか、教室とか…」という検討課題が設定されましたが、それが示すとおりCO₂削減に関する「学びの場」について検討が行われました。

まず、学ぶ知識の内容について「おばあちゃんの知恵袋を思い出す・生活の知恵を活かす・身の丈にあった生活に戻る」といった方向性が示されました。

「暖房・断熱」「生活の知恵」「体の中から温める」方法、「節電対策」などを学ぶなど「わたしたちの意識を高める」ことを目指そうとうたわれました。

そういった「生活の知恵を交換しあえる、学びの場をつくる！」ためには「人材」「場所・機会」が必要であることが提起されました。また「町内会活動と併せて」行うことも挙げられました。

特に「場所・機会」については「市内小中学校や町内会企画など出張授業」のほか「ネット動画」、「チカホや市電、広報さっぽろなどで呼びかける」といった広告・媒体の活用についても指摘されました。

このような「学びの場」を成立させるためには「行政」「企業」「NPO」「町内会」による「活動の仕組みづくり」が大切であり、特に「行政」による「コーディネート・指針づくり」「強いリーダーシップ」、企業が「スポンサー」となること、「主催・協力」が必要であることなどが指摘されています。

このような検討が行われた結果、「学びの場」を作るためのプロジェクトとして「**次世代エコ SCHOOL プロジェクト**」が命名されました。

④D グループ：検討課題「暖房に対する市民意識の低さ」（41 頁参照）

「アイドリング STOP」など「移動・輸送の省エネ」、「冬は厚着をする」などの「省エネ暖房」の工夫、これらに向けた「意識改革」の必要性が指摘されました。

「意識改革」のために有効な「PR 方法」のアイデアとして「節電・節水・省エネ（を呼びかける）シール」を配布し、家庭内の電化製品・蛇口等のそばに貼ってもらうというアイデアが出されました。そのほか「公共交通機関の広告」「テレビやインターネットの CM を有効活用」「SNS や動画サイトで広告」なども提案されました。

また、これら「意識改革」「PR」のために、「企業」は「CM 等で具体的な節電方法を伝える」「電気の効果的な使い方を PR する」、「行政」は「町内会を通じて市民への PR」「『こうすれば良くなる』』ということを発信・PR していく」、「市民」は「友人・知人に積極的な声かけを行う」「身近な所に（節電・節水・省エネ）シールを貼って実行する」などが挙げられました。

こういった一連の「意識改革」のためのプロジェクトとして「**NO MORE 電気泥棒プロジェクト**」という名称が提案されました。

⑤E グループ：検討課題「公共交通を使うことの価値づけ」（42 頁参照）

「公共交通を使うことの価値づけ」という検討課題に基づき、大きく「公共交通のハード面」と「ソフト面」に分けて改善方策が出されました。

まず「公共交通のハード面～待ち時間・乗り換えのストレスを減らす！」ために最も有効と考えられるアイデアとして「運行状況がリアルタイムで分かる」仕組みが提案されました。「スマートフォンで走行中のバス・市電の運行状況を見られるようにする」や「スマホが無い人もいるのでテレビで状況が分かるようにする」といった仕組みが提案され、「行政」が「分かりやすく見やすく災害時も利用可能な案内板を設置する」「スマホアプリのデザインコンペを行い、民間参入の機会を作る」、「バス事業者」が「連携してバス案内を統一する」といった具体的取組が指摘されました。

そのほか「ハード面」の工夫として、乗りたくなるように「乗り物のデザイン」を工夫することや、「定期券購入を簡単に」すること、「乗換環境を充実」させることなども提案されています。

次に「公共交通のソフト面～もっと身近で便利な SAPICA」と題して、主に「SAPICA」に関する工夫が挙げられました。最も注目されたのが「年代別のプレミア」です。「敬老パスの年齢引き下げ」や「敬老パスという名称はやめて、年齢に応じたチャージシステムにすればよいのでは？」といったアイデアが出されています。

そのほか「公共交通×公共施設」として「札幌市の文化観光施設と地下鉄の同時利用で割り引くチケット」の発行、「プレミアをつける」として利用に応じて「グッズ」や「ポイント」を付与すること、「公共交通と自動車利用の共存」として「パークアンドライド」や「カーシェア」と合わせた利用促進について挙げられました。

これら「ハード面」「ソフト面」の取組を合わせて行うことを想定し「**乗って楽しい、乗ってお得～楽得交通プロジェクト**」というプロジェクト名が付けられました。

⑥F グループ：検討課題「CO₂を削減するためのノーカーデー等の取組に対する市民への周知不足」（43 頁参照）

主に「さわやかノーカーデー」の周知について検討を行いました。

まず「ノーカーデーの課題」として「宣伝だけでは市民は動かない」こと、「市全域か市街地限定か」どちらが良いのかという観点が出されました。

それらを踏まえつつ「ノーカーデー」を普及するための「市民」「企業」「行政」による取組の方向性が検討されました。特に「行政」に関しては「飲んで帰ろう！プレミアムフライデーとコラボ（ビール会社など）」のように他の取組、企業との連携や「他の施策との連携を（例：迷惑駐車防止）」という「連携」に関するアイデアが注目されます。

こういった各主体の取組を行う際に「広報媒体の活用」等が必要ですが、その際には「インパクトが大切」という意見が挙げられました。ノーカーデーに関する広報に「インパクト」を持たせるためには「検討する民間チームを作る」こと、「市民」がその「民間チームに積極的に参加する」ことが有効ではないかということが述べられています。

また、インパクトのある取組として、例えば「市長も私もノーカーデー」、または「社長も私もノーカーデー」と題して、市長や企業の社長などのトップ層が率先してノーカーデーに取

り組むことが大切ではないか、例えば「ノーカーデーののぼり付の自転車で通勤」すると言ったことが有効ではないか、また、「企業（飲食店）」の「協賛企画」により「ビールが1杯無料」や、「駐輪場がタダ！」になったりすれば良いのではないかというアイデアが出されました。

上述した市長、社長などのトップが率先してノーカーデーに取り組むということに着目した結果「市長も私も（さわやか）ノーカーデープロジェクト」と命名されました。

3 ワークショップの開催結果

(1) 第1回ワークショップ「市民・企業によるCO₂削減に関する課題の提起・抽出」

ア 開催概要

- ・日時：平成30年8月25日（土）13:30～17:00
- ・会場：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
- ・参加人数：31名

イ 第1回の目標

電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通における
市民・企業によるCO₂削減の課題
…を抽出し、整理すること

ウ プログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「課題の抽出」
 - ・グループワーク3「課題の評価、検討する課題の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

エ プログラムの内容

ガイダンス、事前質問票への回答

検討テーマやグループワークに関する説明の後、事前に寄せられた質問に対して回答しました。

グループワーク 1「追加の疑問点抽出」

検討テーマに関して追加の疑問点がないか、グループ内で確認しました。

グループワーク 2「課題の抽出」

検討テーマ（サブテーマ）に関する課題を抽出し、それらを親和図法（KJ法）にて整理しました。

グループワーク 3「課題の評価、検討する課題の決定」

整理した課題をシールアンケート法（シール投票）によって評価しました。その評価も踏まえつつ、グループ内での話し合いで、第2回で検討を進める「課題」を決定しました。

グループ発表

各グループでの検討内容を発表しあい、全体で共有しました。

第2回までの宿題「アイデア書き出しシート」の配布

個々人で自分のグループの「課題」を解決する「課題解決アイデア」を検討していただくために「アイデア書き出しシート」を配布し、第2回に持参いただけるようお願いしました。

オ 当日の様子



主催者挨拶



ワークショップについてガイダンス



環境計画課より事前に寄せられた質問に回答



会場全景



グループワークの様様



グループワークの様



グループ発表と行政評価委員篠河氏挨拶の様

カ 事前に寄せられた質問・札幌市からの回答

参加者にはワークショップの開催前に、検討テーマに関する事前説明資料と合わせて事前質問票を送付し、検討テーマや行政評価、ワークショップ等に関する質問を、事前にお寄せいただけるようにしました。

その結果、次の質問が出されました。

No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
1	原子力発電所の停止による影響が大きいと思われるが、議題とすることは可能でしょうか。	今回の市民ワークショップのテーマは、「市民・企業による CO ₂ 削減の取組の推進」と設定しているため、テーマに沿った形で意見として出していただければと思います。
2	温暖化対策の為に都市計画とインフラ整備とランニングコストについてどのような対策を考えているのか。	札幌市の都市計画、インフラ整備は、平成 28 年 3 月に策定した「第 2 次札幌市都市計画マスタープラン」に基づいて行っています。その中で、低炭素型の都市づくりを進めるため、高气密・高断熱の建築物の普及、地域熱供給等によるエネルギーネットワーク構築の推進、土地利用の高度化や移動距離の短縮など、エネルギー効率の良い都市構造へと誘導することとしています。
3	発電所を持たない札幌市が、原子力発電が停止した結果何故排出量が増加したのですか？	電気の使用による CO ₂ 排出量は、その使用量に応じて排出したものとして計算されるため、原子力や火力、再生可能エネルギーなどの発電形態やその発電比率の影響を受けます。東日本大震災以降の札幌の CO ₂ 排出量は、火力発電由来の電気の供給割合が高まったことにより増加しました。
4	市の削減のための予算規模はどのくらいの金額で総予算の何%か？ また、項目別金額を知りたい。更に、行政施設と民間補助等の比率はどのくらいか。	平成 28 年度の札幌市の決算額は、一般会計での支出で 9,366 億円、そのうち、環境局が行った地球温暖化対策関係の事業費が約 5 億円です。 札幌市の財政の詳細は、「札幌市のおさいふ」等でご確認ください。 http://www.city.sapporo.jp/zaisei/kohyo/pamph/osaifu/index.html#osaifu30
資料 3 ページ「札幌の CO₂ 排出量の現状」		
5	札幌の CO ₂ 資料にある比較のベースは何になりますか？ 全国平均の%の比較の意味。	札幌の CO ₂ 排出量の特徴をわかりやすくするため、全国と比較しています。




No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
6	政令指定都市別による家庭・業務・運輸部門の人口一人当たりCO ₂ 排出量は札幌市が一番多いですが参考に都道府県別で北海道は何位ですか。	北海道の人口一人当たりのCO ₂ 排出量は第2位です。
7	二酸化炭素排出量(一人当)で現在の札幌はどう変わったのか不明。	(グラフをお示しします。)
資料3 ページ「札幌のCO₂排出量の推移と目標」		
8	札幌市のCO ₂ 排出量の推移と目標に掲載されている「温室効果ガス総排出量」で、2007年から2010年の削減の主な理由を教えてください。 2007年から2010年まで毎年排出量が減少していますが、札幌市が削減への取り組んだ事業内容は何か。また、札幌市と北海道と取組内容に違いがありますか。	この期間のCO ₂ 排出量の減少は、泊原子力発電所3号機の運転開始による影響が大きいものと思われます。 北海道では、平成26年に「北海道地球温暖化対策推進計画」を改定しており、その取組の方向性は、本市とほぼ同じです。
9	市の過去5年間の削減数値の内、2016年度の削減量が大きいのはなぜ。	省エネの取組が進んでいることに加え、再生可能エネルギー由来の電気が使われ始めたこと、通年の気候の影響等が想定されます。
10	市の2030年度削減目標数値の達成見込みに対する考えは。	今後の技術開発状況、社会情勢の変化によることも大きいですが、再生可能エネルギーや次世代自動車の普及、建物の建替時での高気密・高断熱化などを進め、引き続き目標達成に向けて取り組んでまいります。

No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
11	札幌の CO ₂ 排出量の推移についての質問・疑問点。1990年と2016年比で運輸・産業部門は27年間ほぼ毎年同じ排出量ですが、家庭・業務部門が1.5倍以上になっている理由を「人口や世帯数店舗面積などに伴い増加傾向にある」とありますが、データはありますか。	(グラフをお示しします。)
資料4 ページ		
12	参考資料にある札幌市の事業成果はありましたか？ 札幌市の事業でやっているのに、このワークショップを行う意図が知りたいです。ぶしつけな質問ですが、ご回答をお願いします。	<p>参考資料に掲載している事業は、啓発事業も多く、札幌市の温暖化対策事業の一部であるため、個々の事業の効果を測ることは困難ですが、これらの事業を含めて、様々な温暖化対策事業を実施したことで市内のCO₂排出量が減少傾向になり、全体として一定の効果をあげているものと考えています。</p> <p>事業の実施・評価するにあたっては、市民意見を取り入れることが必要と考えており、そのための機会として市民参加ワークショップを開催しております。いただいたご意見は行政評価委員会の審議や施策の検討等に活用させていただきます。</p>
13	<p>「①徹底した省エネルギー対策の推進」で、「自動車から公共交通機関の転換」とありますが、具体的にどのような形で推進されるのでしょうか。</p> <p>札幌市が推進している「自動車から公共交通機関への転換」への具体的取組は何ですか。</p>	札幌市では、さわやかノーカーデーの呼びかけや、最寄りの駅で自動車から公共交通機関に乗り換えるパークアンドライドなどの取組等により、利用促進を図っています。

No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
14	<p>「②再生可能エネルギーの導入促進」で、木質バイオマス発電利用はその資源調達にその輸送コストがかかると聞いたことがあります。札幌だと事業として成立するのでしょうか。</p>	<p>札幌市では、エネルギーの消費地として、道内で生み出された木質バイオマスを利用促進のため、ペレットストーブの導入の推進を行っております。現在のところ、流通量が少ないため、ペレット燃料の市場価格は灯油と比べやや割高となりますが、エネルギーの地産地消に繋がること等から市内で使用している方がいらっしゃいます。</p>
15	<p>「札幌版次世代住宅基準」に適合する住宅とは、具体的にどのようなものですか？（札幌市のホームページにでているのかな）</p>	<p>札幌版次世代住宅基準は、住宅外皮の断熱性能や気密性能などにより評価するための札幌市独自の基準で、新築住宅では5つの等級に分類しています。上位の等級に適合する住宅では、冷暖房に使用するエネルギー量を削減できるため、住宅に設置した太陽光発電などで、使用エネルギー量を全て賄うことも可能となります。詳しくは以下の URL をご参照ください。</p> <p>http://www.city.sapporo.jp/toshi/jutaku/10shien/zisedai/zisedai.html</p>
16	<p>道内の他市町村の取組状況はどのようなになっているのでしょうか。積雪寒冷地を要因にしているので、他市町村の取組が参考となるのか、地域性の特徴なのか知りたいところです。</p>	<p>道内においては、木質バイオマスの積極的な利用を進めている下川町等独自の温暖化対策を進めている自治体もありますが、全体としては、積雪寒冷地という共通課題を持ちながら、各自自治体、補助制度等による再生可能エネルギーの普及拡大、家庭への省エネ診断、啓発による公共交通の利用促進、廃棄物の削減等の取組を推進しております。</p> <p>詳しい各自自治体の取組などは、以下の URL をご参照ください。</p> <p>http://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/torikumi/01.html</p> <p>札幌市としては、人口が集中する消費都市としての特性を踏まえ、これから取組を積極的に推進していく必要があると考えております。</p>

キ ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート※

凡例

- ◎  検討テーマ（サブテーマ）に関する「課題」
- ◎  取り組むべきと考える課題への投票（シール）
- ◎  （太線）第2回ワークショップで検討する「課題」の元となった意見（島）

※ワークシートについては、いただいたご意見等を原文のまま掲載しております。

Aグループ（電気・電化製品）

罪悪感を持つ ●

家族・自分も含め、電気・電化製品をつけっぱなしにしてしまう。

見ていないのにテレビをつけっぱなし。

テレビ番組を録画しても、溜めたままで見ない。

研究室のパソコン、つけっぱなし。冷蔵庫にもものを入れすぎ。

デパートの冷暖房が効きすぎ。

常に電気を使いすぎている（Wi-Fi、PC、エアコン）。

シャワーをマメに止めていない。

コンセントを抜く方が、電源を消すだけよりエコになるのか？

コンセントを抜くのと、リモコンで消すの、どちらがより電力を消費する？

意識を持つ

月々の電力消費を把握していない。

料金の変動に敏感になる。

1ヶ月前と1年前の料金を比較する。

節電へ意識を向ける。

お金 ●

金銭的な問題としての電化製品。

省エネ電化製品は高い。

電気代が高くなると、省エネ製品が買えない。

消費電力が少ない家電は、高くても買えない。

電化製品の引き取り料も高い。

安い・古い家電は消費電力が大きい。

買い替え費用の回収（いつまでかかる？）。

年金など限られた収入では、省エネ製品は買えない。

電化製品の買い替えが進まない。

家の照明をLED化するにはコストがかかる。

哲学

経済や人命とCO₂削減。どちらが選べないの？

短期的な対応（冷房）と長期的な対応（CO₂）。

情報 ●

設定温度の認識がマチマチ。

平均気温が上昇するなか、エアコンの設定温度が今の外気温に合っていないのでは？

多様化する電力会社。どの電力会社がどのエネルギーで発電しているのか。

情報を出す側（札幌市含む）は、情報を受け取る側のことまで考えていない。

パソコンがない人はどうする？省エネ家電の情報発信が不十分では？

一部の人に情報が届かない。

市の取組

■住宅

エコ（冷房）と最近の気温上昇による冷房利用の促進。

エアコンが増えると、排熱量が増大する。

新しい建物は熱がこもりやすい（夏）。

新築は窓が少ない。一方で冷暖房は各部屋設置と、多すぎる。

■その他

クリスマスのイルミネーション、あんなに長い期間点灯する必要があるのか。

イベントにかかる費用と効果が知りたい。

地下鉄で風鈴。気持ちいいはずだが、音がうるさいため（？）今は付けていない。

第2回で検討を進める課題：
罪悪感とお金

Bグループ（電気・電化製品）

省エネのPR ●

“ほくでん電気の診断”は良いと思う。

CO₂を減らすとして目標値は？

市の運動、告知をしないのはなぜ？

個人の取り組みにつなげるためには？

市の目標をもっとアピール。

市の分譲地はエネルギーを集中管理。

省エネに対する意識

冷蔵庫に物を詰めすぎ。

センサー付き照明が普及すると良い。

テレビつけたまま寝落ちしてしまう。

オフタイマーを有効活用したい。

使わない電気を消す。

電気の使い方改革 ●●

ライフスタイルの見直し～あえて不便な暮らし～

24時間、町が生きている。

電気が止まると暮らせない。

便利さとは逆に、ムダが発生している。

商売の仕方が変わってきている。

人が通るとライトが点灯する街路灯。

昔は正月の1日・2日、店はやっていなかった。

コンビニの24時間営業は必要かどうか。

省エネ製品は増えているが、それに伴いトータルの電気使用量も増えている。

古い家電の更新 ●

古い家電の廃棄を進めるには。

家電のエネルギー別買い換え補助金を出しては。

リサイクル料金が低い。つい長く使ってしまう。

大型ゴミ回収をPRする。

リサイクル品の利用。

省エネ家電の普及。

LEDなど新しい省エネ製品の導入 ●●●●

家庭にLED電球を普及させる。

LEDに買い替えたい気持ちはある。

LED電球、普及が進まない。

LEDが高い。

LED購入ポイント。

LEDは長持ち+エコ。

目に見えるエコ。

コスト。

第2回で検討を進める課題：
家庭で省エネ家電の導入を進めやすくするには？

Cグループ (暖房・冷房・家屋の断熱化)

高気密高断熱のコストの高さ・難しさ

■どういう仕組みが知らない

エコ住宅って、どうやって建て
るの？

どのような素材を使って高気
密・高断熱にするのか。

よくわからない仕組みや理屈を
教えてほしい。

■コスト高になる

優れた冷暖房は価格が高い。

床断熱に改修するのは難しい。

家屋の断熱化・高気密住宅普及
促進事業にはお金がかかる。

空気を循環するシステムを導入
するにはコストがかかる。

断熱改修したくても資金が無い。

個人の生活状況や住宅条件によ
って、できる・できないがある。

改修時には解体費用とリフォー
ム費用がかかる。

■高気密＝空気がこもる？

高気密＝換気はどうなるのか。

断熱化をすると空気がこもりそう。

意識改革●●●●●

■私たちが

つい車に乗ってしまう⇒歩く！

公共交通を利用する。●

エコ＝セコ（節約）を楽しむ

ネットショップの利用でパソコン・
スマホの意思用時間も増え、
消費電力も増加している。

ついついスイッチを入れてしまう。

■企業や行政、政治が

ものを作りすぎる。

目的のために、互いの利害関係
を解消する。

■私たちが「知る」ことが大切

情報・知識をどのように得る

町内や小学校にエコ教室を設

北海道人ならではの考え方をリセット●●●●

■北海道人の冷暖房の使い方

道産子の冷暖房レベル問題。

札幌の暖房温度が高すぎる。

冷暖房の温度設定について。

北海道の人は暖かくして薄着。

岐阜県では厚着する。

お客さんが家に遊びに来た時、快
適な温度でもてなしたい気持ち。

■考え方をリセットしよう

さらに一枚衣類を着る。

必要な所だけ電気をつける。

暖房マイナス 2℃&冷房プラス
2℃。エネルギーを使わずに実現
する。

デパートの店内温度を下げる。
冬、熱すぎる。

再生可能エネルギー●●●

発電量が少ないことが課題。

季節、時間、気候に左右されやす
い。

太陽光発電を自宅でやってみた
い。どうすればいいか？

再生可能エネルギーがもっと活
用しやすくなるとよい。

個人や企業の小規模発電の電力
売買がしやすくなるとよい。

コンパクトシティなど 大局的な検討が必要

都市計画や建築基準法で基準を
設ける。エコシティを設計する。

地下鉄周りに高層マンションを
建造。郊外居住者が都心に移住
し公共交通を利用する。

コンパクトシティの推進。●

都心集住が進むと都市熱や CO₂
が増加するのでは？

ゼロカロリー循環 の促進

ゼロカロリーの考え方（水を落と
すか、上げる力を活用…など）。

「雪エコ」促進 ●

雪や排熱の利用。

雨水をトイレの排水にする。

融水・雨水⇒家で利活用する。

雪の放射冷却を活用することで
CO₂を低減する。

世帯の増加によるエネルギーの
無駄。

第2回で検討を進める課題：
SAPPORO から始める
みらいエコ 寺子屋とか、教室とか…

Dグループ（暖房・冷房・家屋の断熱化）

市民意識が低い

天災災害が少ない。
身近な問題としての実感が無い。
問題のレベルが高すぎる。

暖房

暖房温度が高いのが普通と
思っている。
冬でも薄着。

オシャレにこだわりすぎて、冬
でも薄着。
冬は暖房を使い過ぎ（灯油代に
お金がかかる）。
冷暖房の効率化。
暖房の設置場所。
暖房の設置台数。

冷房

クーラーの温度設定（を26℃
にしてカーテンを閉めている）
が高すぎる。
冷房設置の必須化（学校等の施
設等）。
冷房が必要な場所に使用する
べき（小学校・中学校）。
夏場の換気。

断熱 ●●●

高断熱住宅にしたいが、年金生
活で無理。
高断熱化するためのコストが高い。
高断熱化するための方法を知ら
ない。

省電力

LEDへの転換もコストバランス。
待機電力の低減。
旧機器の非効率。

高齢化

高齢者が増え、寒がりが増える。
灯油代が増える。
在宅介護を開始して、石油・電気
代が増えた。
寒い時は厚着。暑い時は薄着（高
齢者が多いため）。

行政 ●●●

各政策のコストバランスの問題。
予算が少なすぎ。総予算の0.5%。
行政のPR不足。
行政の意識が低い。

コストバランスが問題

対策案

小中高、各学校で関連教育を実 施する。	LEDコストバランスの問題。 家の中の冷房の使用頻度を減ら していく。	使用後は電気のコードを抜く。 家電の利用を抑える。 冷熱供給の利用を一般的に。	冬は窓ガラスにフィルムを装着。 部屋の上の暖かい空気を下へ（サ ーキュレーター、扇風機など）。
------------------------	---	---	---

第2回で検討を進める課題：
暖房に対する市民意識の低さ

E グループ (交通)

車に代わる公共交通の課題解消が必要

公共交通のデメリット ●●

乗り継ぎ範囲が決まっている。	公共交通の利用率が低い。無いと困るけど使わない。
公共交通機関の車内温度が高い、または低い。	乗り継ぎの不便さ。
公共交通(特にバス)は使いづらい(わかりにくい)。	公共交通の利便性の低さ。
	交通費が高い。
	停留所が遠い。

①不便さを解消 ●●●

Door to Door を代替できる交通があれば。	タクシーとバスの乗り継ぎ。
代替機関が使いやすい環境を作る。	地下鉄の駅が近くにあればいいと思う(延伸)。

②公共交通を使うことの価値づけができないか ●●●●●

自家用車の「メリット」を公共交通が代替できれば。	利便性に代わる価値観。
公共交通のプレミアがあると良い。	若者が在学中に使えるカード。
おしゃれなバス車両じゃない(カッコよくない)。	フリーライドは良くない。
公共交通もっとおしゃれになれば。	昔は無料だった。
公共交通・物流で働く人の地位が低い。	札幌は他市に比べて制度が充実。
	恵まれていることに気づいていない。
	公共交通を使えば使うほどメリットが出るように。

カードの一元化 ●

学生のためのバスとかあれば...	海外の公共交通は子どもが無料。
JR・タクシー・バス、何にでも。	敬老バスのような市民バスで公共機関を利用(ウイズユーカード?)
自治体を超えて使える。	

自家用車の利用に依存

車を使わないと生活できない。今の便利・スピード。	車に乗らない=良くない(会社員として)。
便利さ⇄メリット・付加価値。	個人が・企業が、公共交通を使わない(不便・非効率だから)。
エコのメリットが見えない。	エコな行動のメリットがほとんどない。(社会的な義務だけでは人は動かない)。
価値の見える化をすべき!	
車の利便性・依存度。	
利便性が優先。	

歩く環境づくり

冬、歩くのがつらい。
勾配があるので冬期間は歩きづらい。
市民の方々が自発的に歩く事が多くなるようなまちづくり。

自転車のインフラ

自転車はエコな乗り物なのに、そのインフラが不十分(駐輪、走行レーン)。
サイクリングロードがあれば良いと思う。

こまめなアイドリングストップ

配達員などが毎回エンジンを止めるようにする。
アイドリングストップ。

車が無くても良い暮らしカーシェア

レンタカー屋、夜やっていない。
車を持たない生活(カーシェア)の仕組みの徹底。
シェアカーの拡大。

物流の効率が悪い ●●●

物流の効率化(共同荷捌きなどがあれば)。
ダイレクトメールが多い。
個人が小ロットでネット通販。物流エネ、非効率。
宅配便、細々した荷物が多い。
渋滞になるとエンジンかけっぱなしが多くなるので、渋滞が起きづらい交通網が望ましい。
個人の消費行動や企業広告がエコな交通になっていない。

除雪のエネルギー

春(3月)なのに、必要のない除雪が多い。

第2回で検討を進める課題：
公共交通を使うことの価値づけ
をすることが重要な課題！

F グループ（交通）

公共交通（地下鉄など）

ノーカーデーきっぷ。	公共交通機関の充実。
乗りたくなる工夫。	地下鉄の輸送量の増強。
車両をふやす？東西線はギュウギュウ！	路線バスの路線適正化（簡素化）。 ニーズ、本当に合っている？
バス+地下鉄の乗り継ぎやすさ。	地下鉄駅があれば使うのに…。
地下鉄は、人口や生活ゾーンで考えて適当なのか？	車を使わない社会を実現するには？

意識

車は便利！	⇔	歩いてできることもある！
なるべく車を使わないようにする意識。		札幌以外の人が車で乗り入れているのでは？
車に乗ったら目的地まで行ってしまう。		観光をする時も自家用車を使っているのでは？ ●
「近いところでも車」という意識の改革。		スーパーなどで車のエンジンつけっぱなし。
意外に歩いても行ける！と気づくには？		車のエアコンばかりでなく、たまには窓を開けてみる（夏は特に）。

啓発（周知）

覚えやすい！使いやすい！
ドニチカ切符は大成功！
CO ₂ 削減の取組に関する分かりやすいキャッチコピーなど。
スマホを見ても公共の情報をキャッチできない。
若い世代の情報アクセスが少ない。

さわやかノーカーデー

さわやかノーカーデーの認知度が低い。
周知不足。 ●●●
知らなかった。
札幌の仕組みはどうなっているのか？
公共交通でアナウンスしている。

配達の滞り。再配達。
配達ポストの周知と活用。
受け取りやすい仕組み。
低炭素自動車の価格が高い。
エコな自動車を買いたい人はいる。
補助はあるの？知らないだけ？

自転車

自転車の活用。
駐輪場が少ない。
【駅】数が足りない！止められない！ ●
【他】お店・企業が用意したらよいのでは？
企業が駐輪場を整備する。
社会活動の一環として。 ●
地下鉄駅付近の駐輪場が足りない。 ●●
空き地の利用を。 ●●

自転車のマナーの向上。
乗る人の意識を高める。
マナー教室で快適な環境を作る！ ●●

ハードの整備が追いついていない。
自転車用の道路の充実。
今の道路では、安心して自転車を走らせるのが難しい。
自転車の冬利用はキケン。
自転車が走りやすい道路づくりはできるのか？

第2回で検討を進める課題：
CO₂を削減するためのノーカーデー等の取組に対する市民への周知不足

(2) 第2回ワークショップ「課題を解決するために、市民・企業・行政はどのような取組を行うべきか」

ア 開催概要

- ・日時：平成30年9月22日（土）13:30～17:00*
- ・会場：札幌市本庁舎6階 会議室※
- ・参加人数：26名

※当初の予定では平成30年9月9日（日）、第1回と同会場にて実施する予定でしたが、9月6日（木）に発生した北海道胆振東部地震の影響により、日程を順延、会場も変更して実施しました。

イ 第2回の目標

電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通に関する
課題を解決するために、市民・企業・行政はどのような取組を行うべきか
検討すること（取組アイデアの抽出、各種体の役割整理）

ウ プログラム

1. 開会
2. ガイダンス、前回の振り返り
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「課題解決アイデアの抽出」
 - ・グループワーク2「課題解決アイデアの評価」
 - ・グループワーク3「課題解決アイデア実施・実現のために、市民・企業・行政はどのような役割を担うべきか」
 - ・グループワーク4「課題解決プロジェクトの命名」
4. 全体ワーク
5. 市民参加に関する情報提供
6. 主催者挨拶
7. 閉会

エ プログラムの内容

ガイダンス、前回の振り返り

検討テーマの再説明、前回の検討内容について振り返った後、前回出された追加の疑問に回答しました。

グループワーク 1「課題解決アイデアの抽出」

「宿題」として各自が考えてきたアイデアを出し合いました。

グループワーク 2「課題解決アイデアの評価」

出された「課題解決アイデア」をシールアンケート法（シール投票）で評価し、以降、検討を深める「課題解決アイデア」を決定しました。

グループワーク 3「課題解決アイデア実施・実現のために、市民・企業・行政はどのような役割を担うべきか」

「課題解決アイデア」の実施・実現に向けて、市民・企業・行政等の主体はどのような役割を担うべきか、なるべく具体的に検討しました。

グループワーク 4「課題解決プロジェクトの命名」

検討を深めた「課題解決アイデア」を「課題解決プロジェクト」として命名しました。

グループ発表、全体討議

各グループからの発表の後、他グループのワークシート（模造紙）に新たに意見・アイデア・感想を書いた付箋を貼り付けました。また、参加者数名から貼った意見・アイデア・感想について発表してもらいました。

オ 当日の様子



ガイダンス



環境計画課より前回出された疑問に回答



グループワークの様様



グループ発表の様様



全体討議の様様



行政評価委員・蟹江氏挨拶



環境計画課から市民参加の取組
(クールチョイス) について紹介

カ 第1回で寄せられた質問・札幌市からの回答

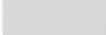



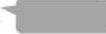

第1回のグループワークの際に下記の質問が出され、札幌市から回答しました。

グループ	No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
A	1	<p>説明資料4ページ</p> <p>「第2次札幌市環境基本計画」の実施期間と「水素エネルギーの活用」に向けて取り組む期間の違いは？</p> <p>(FT 補足: 現基本計画の期間内で、何をどのくらい行うことを考えているのか)</p>	<p>第2次札幌市環境基本計画では、計画期間となる2030年までの長期目標として、積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現を目指しており、その中で、燃料電池自動車や発電装置である燃料電池の普及、道内の再生可能エネルギーで製造した水素の利用などを推進することとしています。</p> <p>また、水素エネルギーの貯留・可搬性を生かしたサプライチェーンの構築へ向け、道内自治体や事業者との連携も図っていきます。</p>
E	2	<p>水素エネルギーのメリットは自然エネルギーの貯留だと思うが、一体的に取り組むということ？</p>	
A	3	<p>北海道電力は、再生エネルギーの買取価格を低く抑えているのではないだろうか。そのことについて、札幌市はどのように考えているのか。</p> <p>(FT 補足: 再生エネの買取価格を上げるよう札幌市から働きかけられないか)</p>	<p>固定価格買取制度は、国の制度であるため、他の政令指定都市と連携して、制度からの自立化と市民負担の更なる軽減、再生可能エネルギーの拡大を促進できる制度とするよう、国へ要望しております。</p>
C	4	<p>説明資料3ページ</p> <p>「他都市との二酸化炭素排出量の比較」グラフのCO₂排出量の測定・算出方法は？</p>	<p>札幌市を含め各都市が推計した温室効果ガス排出量を、各都市の人口で割った値です。</p>
D	5	<p>市政の中でのCO₂削減の重要度は？</p>	<p>札幌市のまちづくりに関する最上位計画である「まちづくり戦略ビジョン」(戦略編)の8つの創造戦略の一つに「低炭素社会・エネルギー転換」が掲げられており、温暖化対策の推進は、重要な政策課題の一つに位置付けております。</p>
D	6	<p>市議会でのCO₂削減の取組は？</p>	<p>札幌市温暖化対策推進計画は、市議会での審議を経て策定されたものであり、札幌市全体として温暖化対策に取り組んでいます。</p>

グループ	No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
D	7	冷暖房の温度設定の基準は？	札幌市では、庁舎内において夏の冷房温度は28℃、冬の暖房温度は20℃に設定しており、市民の方へも同様の啓発しております。
E	8	「さわやかノーカーデー」の頻度はどのくらい行うのか。	さわやかノーカーデーは毎月5日と20日の2回設定しております。 札幌市では、ホームページへの掲載や、ノーカーデー当日に各地下鉄駅と本庁舎でアナウンスするなど、周知に努めています。
F	9	さわやかノーカーデー等、札幌市におけるCO ₂ 削減の取組（交通に関するもの）について、周知方法やこれまでの成果について教えてください。	
E	10	パークアンドライドの取組で、最寄りの駅で自動車から乗り換える時、駐車場の確保ができるのでしょうか。駐車場代はかかりますよね。	市営地下鉄南北線では、麻生、南平岸、澄川、自衛隊前、真駒内の各駅、東西線では、宮の沢、琴似、二十四軒、大谷地、新さっぽろの各駅、東豊線では、北13条東、東区役所前の各駅、JRでは、新川、新琴似の各駅、計14か所において、有料にて利用できます。
F	11	パークアンドライドの取組というが、パークの場所（駅）はどこを想定しているのか？	
E	12	札幌市のCO ₂ 削減目標は全体的に25%削減ですか？	札幌市温暖化対策推進計画において、2030年に、1990年比で温室効果ガスの総排出量を25%削減することを目標としております。
E	13	環境基本計画の企業・個人の認知度ってどれくらいですか？	札幌市では、本年3月に第2次札幌市環境基本計画を作成したことから、出前講座や各種イベントを通じて周知に努めてまいります。
E	14	札幌市役所や公共施設でのエコな取組例は？（省資源、省エネ等）	節電や節水、環境配慮製品の積極的な使用など、職員自ら行うもののほか、各施設での省エネ機器導入、空調機器の細かな調整などを行っています。

グループ	No	ご質問の内容	札幌市からの回答
E	15	<p>質問・回答整理表 No. 15</p> <p>「札幌判次世代住宅基準」の等級分けの対象者のメリットは？ 中古住宅が対象外なのはなぜ？</p>	<p>札幌市版次世代住宅基準に適合する住宅を新築する場合、補助を受けられます。等級が高いほど補助額が上がる仕組みとしています。中古住宅については、当制度によりランク付けのみ行っており、札幌市住宅エコリフォーム補助制度を利用して断熱工事への補助を受けることができます。詳しくは、以下の URL をご参照ください。</p> <p>http://www.city.sapporo.jp/toshi/jutaku/03ref_0_rm/eco/eco.html</p>
F	16	<p>エコカー購入時の補助はありますか？</p>	<p>走行時にCO₂を排出しない電気自動車や燃料電池自動車を札幌市民や事業者が購入する場合等に補助を実施しております。詳しくは、以下の URL をご参照ください。</p> <p>http://www.city.sapporo.jp/kankyo/zidousya_kan_kyo/jisedai_hojo.html</p>
F	17	<p>地下鉄の路線延長のニーズがどの程度あるか把握しておられますか？</p>	<p>地下鉄の延伸により公共交通機関の利用者が増加し、自動車交通からの転換を図ることができれば、CO₂の削減に寄与することは考えられます。</p> <p>札幌市では、地下鉄延伸に関しての市民ニーズについて、具体的に調査を行ったことはありませんが、地下鉄を延伸するためには採算性を確保する必要があり、今後人口が減少に転じると推計されること、また建設事業費が多額であることから、その見込みが立たず、現在のところ延伸は極めて難しい状況です。</p>

キ ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート※

凡例	
◎ 	課題解決アイデア
◎ 	取り組むべきと考える課題解決アイデアへの投票（シール）
◎ 	検討を深めることになった課題解決アイデア（島）
◎ 	課題解決アイデア実施・実現のために、誰がどのような役割を担うべきか
◎ 	他チームのメンバーからの追加意見
◎ 	特にプロジェクト名の元となった意見（島）

※ワークシートについては、いただいたご意見等を原文のまま掲載しております。

Aグループ：検討課題「罪悪感とお金」

コアな取組（町内会等による取組）

家電の買替

古い家電でもまだまだ使える⇒もったいない。
新しい機能もわからないまま、新しいものを使う⇒もったいない。
札幌市や老人クラブから家電買替のメルマガを説明してもらった。
まだ使える⇒買い替えへの意識の転換。
(札幌市) コンシェルジュのようなecoに関する相談員がほしい。

町内で発電・売電

町内会単位で発電・売電、発電量や販売額を競い合う。
浮いたお金で町内をもっと便利に！（町内会）発電・売電目的の法人を町内会単位で作る。
町内会にも注目していてとてもいいと思います。
町内会単位での発電・売電は素晴らしいと思います。
ecoにつながる工夫をしているのは素晴らしい。

ecoな活動への参加

eco⇒お金になるのか。
お金がかかるとはやはりやらない（やれない）。
どれだけお金が浮くのが見えるかですと良い。
できる範囲で取り組むことを心がけて達成感を得る。
一人で行っても続かない。みんなでecoな活動。
高齢者側から若者を引き込む。一人暮らしの若者も積極的に参加させる。
(札幌市) 見えるeco＝分かりやすいeco。札幌市に分かりやすく示してほしい。
(町内会) 情報の発信源となる。

エコ投資

10年後20年後には電気を使わない街へ。未来への投資。
太陽光発電を有意義に使用（街灯など）。
信号・街灯は別の電源で（太陽光など）。
街路灯の電気料金はどこが払っているの？
札幌市独自のecoな活動が見えてこない。
計画的な停電を想定して訓練を行う（意識の醸成）。
札幌市も「上手に手を抜いて」幅広い対応を。

個人の取組

寒さ対策⇒どれだけecoな状態で耐えられるか。
ピーク時をずらして充電（非常用電源の確保）。
電気料金の領収書を毎月チェックする。
冷蔵庫⇒保冷剤の活用。
早寝早起きは何文の得？（電気代いくら分？）
(行政・企業) モデルケースを示してほしい(例：1時間早く寝たらどれくらいエコなのか)。

情報提供の評価と工夫

札幌市は今回のブロックアウトに対して何をしたのか。混乱なくBCP対応・市民支援が出来たか。総合評価は？
行政である札幌市に罪悪感や反省はないのか。市職員が皆同じ意識を共有しているのか。

札幌市は啓蒙・周知があまり上手ではない。
情報発信、ネットを使えない人は？若者や高齢者への取組は？
高齢者にwebサイトのリンクは難しい(紙媒体・電話が良い)。一言はできていたのでは？
(札幌市) リンクだけでなく紙やパンフを使い、回覧・配布で情報を広める。
(札幌市) 広報さっぽろでもっと周知する。

TV・ラジオのCMで啓蒙活動を行う。
(札幌市) 年代別に媒体（メディア）を使い分けて情報発信する。
(新聞・テレビ・ラジオ) 目耳の両方で、情報を得られるようにする。
(札幌市・メディア) 繰り返し情報発信（派に制り込む）。

読みたくなくなるような広報誌(構内誌やオンサイトのオオチャレな感じ)でPR。

できることを見える化する⇒電気を使っているものを書き出す(テレビ、冷蔵庫、炊飯器など)。
(札幌市) 消費電力の指標などをまとめたリーフレット(広報さっぽろ)を作る。
(札幌市) 節約事例を市民から募集・発表する。
(札幌市) ACチャハンのCMのように具体的な方法をわかりやすく伝える。

本州から来たばかりの人は、停電時の冬の寒さを知らないかも？
北海道へ転居してきた方のほうが積極的な啓蒙活動をしている。
(北海道・札幌市・新聞社・ラジオ放送局など) 全道的な広報。
町内会活動での情報発信(ネットを使えない人も相当居るため)。
(市民) 節電以外にもできることを探す。

本当に必要な以上の明るさ・ネオンが必要なのか。

プロジェクト名：
「ヤル気はあるのわたし!!見せてくださいeco工夫!!」

Bグループ：検討課題「家庭で省エネ家電の導入を進めやすくするには？」

省エネ・LEDのメリットとデメリット

■LEDのメリット

交換の手間がかからない。
電気が安い。
寿命が長い。
衝撃に強い（壊れにくい）。
屋外にも向く（虫が寄り付かない）。

つけるとすぐ明るくなる。
CO₂の排出が少ない。
購入コスト・電氣代は変わらないが10年以上は交換不要などの利点を理解すべし。

■LEDのデメリット

コストが高い。
熱に弱い（使用場所に向き不向きがある）。
光が均一に放射できない。
白熱灯・蛍光灯に比べて重い。

LED導入のメリットたくさん。
10年前と今の家電を比較すると、年間電氣料金とCO₂排出量が下がっている。

一人一人の意識改革

購買意欲を上げるため一人一人の省エネに対する意識改革を！（知識を深めるための）広告・ポスターなど。
今回の停電の経験をひまえて、防災×省エネPR。
考えて暮らすことが省エネにつながる。

札幌市の広報や番組。
電気が止まると暮らせない。
普段から電氣に頼らない生活の知恵。
今回の地震の経験を伝える。
今回の教訓を生かすことが省エネにつながる。
オール電化だと、電氣が止まると環境的。

ライフスタイルの見直し。
自然に近い暮らし（太陽のリズムで生活）。
部分照明の検討。
保冷剤の活用。
市民一人一人が家庭で。
CO₂削減は深刻なテーマと意識する。
今こそ電氣に頼らないまぢづくり。
札幌市全体。
若いうちにサバイバル経験。
学校単位。

小さな時(子どもの頃)からサバイバル！
サバイバルに関する知識がつく。
サバイバルスクールに通いたい。

さまざまな取組

導入コストを下げる工夫

LEDは高いというイメージ。
企業に頑張ってもらって価格を下げてもらう。
企業単位。
新しい省エネ家電を導入すると電氣代が安くなる。
浮いたお金を他の(ローン返済など)費用に向けての意識を持つとう！

企業の省エネ・CO₂削減の義務化。

エコポイント制度

エコポイント制度(2010年まで実施された制度)の活用(復活)。
年金受給者(低所得者世帯の補助)を厚くする。
エコ製品を買うとポイントがもらえる。
エコポイント制度の復活希望！

一石二鳥

ゴミの処分費用値上げ⇒省エネ製品の導入補助に。
札幌市の有料ゴミ袋を活用。
各町内会に。まずは街路灯等に。

PR

メーカーもPRすべき。我々も勉強すべき。
電氣店のチラシで省エネ効果をもっとPRしてほしい。

プロジェクト名：今こそ始める SAPPORO 電氣の使い方大改革プロジェクト

Cグループ：検討課題「SAPOROから始めるみらいエコ 寺子屋とか教室とか…」

おばあちゃんの知恵を思い出す・生活の知恵を活かす・身の丈にあった生活に戻る

暖房・断熱

- 薪ストーブの復権。
- 薪割りで三度、身体を暖める。
- 窓断熱の問題。
- 窓からの断熱が有効(高いけど)。
- ヨーロッパの家窓は三重構造。
- 太陽光を日常的に使う。
- 「冬の太陽光利用」のPR。
- 太陽光を蓄熱する⇒建物が重くなるデメリットも。

生活の知恵

- 使っていないものを死蔵せず、マナーアウトに出す。
- 捨てる前に再利用できないかを考える。
- おしゃべりにリサイクルして付加価値を高める。
- 冬着のファッションジョー(宇宙素材、高機能衣類)。
- まとめて洗濯する。
- 風呂にためのお湯を減らす。
- 重い物袋を持ち歩く。

節電対策

- 電気を使わない日をつくる！
- LED照明にする。
- テレビのつけっぱなしをやめる。
- 家の電気のアンペア数を下げる。
- 主電源をoffにする。
- センサーライトもいぬ！
- 冷蔵庫の無駄な開閉をやめる。
- 炊断ジャーの保温を止める。
- スマホの利用時間を決める。
- ネオンは本当に必要？
- 早めの就寝。

わたしたちの意識を高める

- 考え方をリセットする
私たちの意識を高めよう。
環境問題の改善は自分から。
- 企業も！
考え方のリセット。
企業の冷感扉の指導を徹底する。
(冷感扉機に)推奨温度のラベルを貼り付ける。
啓発だけではなく、大型店舗の温度設定などを行政指導(札幌市)。

企業・会社・上司の意識改革。

今日の結果を市民にどのように知らせるの？

上の世代の「知恵」を活かした取り組みは素晴らしいと思います。

音の暮らし方を知ろう。

早寝で健康的な暮らしもいとわと思った。

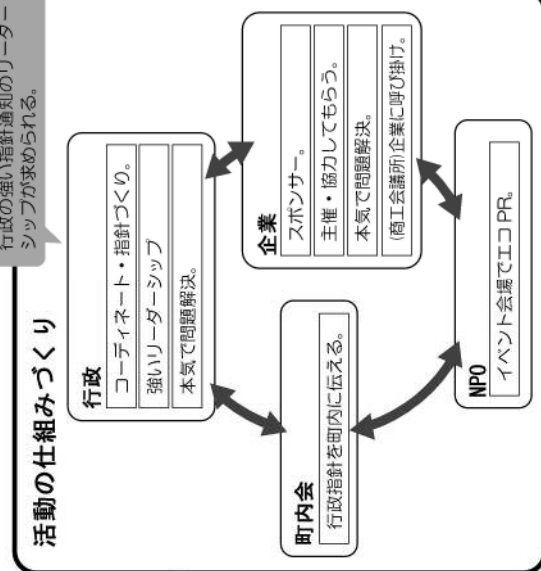
生活の知恵を交換しあえる、学びの場をつくる！

- 学校の先生をもっと活用しては？
- 誰が教える立場になるのか？
(男性)薪や電気風呂、得意では？
 - 誰に教えるのか？(子ども・大人・市民・企業)
 - 時間が無い、忙しいにも簡単に、エコ寺子屋の講師(リーダー)育成。得意分野を活かす。

場所・機会

- どのような場で行うか(イベントの中で、小中学校・ネット動画)。
- 市内小中学校や町内会企画などに出張授業。
- チカホや中電、広報さっぽろなどで呼びかける(本気で結果を求める)。

何をすすめるにもお金がかかる。



プロジェクト名：次世代エコ SCHOOL プロジェクト

Dグループ（暖房に対する市民意識の低さ）

意識改革 ●●●●●●

意識と疑問が未来を変える！
環境に関する政策を掲げる政党や議員に投票する。
情報発信。ネット使えない人には？若者や高齢者への取組は？
温暖化の危機を積極的に訴え、他の人を巻き込む！
楽しい・面白い・流行・便利という意識から農業・労力・自然等の必要性を家庭で教育・しつづける。
「ただ生きてるわけじゃない」という意識をしっかりと身につけさせる。

移動・輸送の省エネ

工口運転シールの配布。
1日5分のアイトリングSTOPでCO₂を年間55kg削減。
脱「くるま」。自転車活用。
ノーカーデーを作る（周数番号ナンバーの日とか）。
公共交通機関でも節電。
地産地消を心がける（輸送コストの低減）。

省エネ暖房

冬は厚着をする。
「部屋を暖かくして薄着」ではもったいない！
暖房を使わない時は消す。
ファシジョンなど衣類の防曇性の再確認。
室内温度15℃に。重ね着したら生活できるレベルです。

その他のCO₂削減方策

家の周りの植木。夏はつるが伸び葉が生い茂り、実がなるものも。日用品とかの製品の過度な包装。
次世代住宅でなくとも今住んでいる家で太陽光発電はできないか？また、補助は？
環境汚染のない自然素材の製品を使う（洗剤や化粧品）。
節電・節水（早寝・早起き）。窓の周りの目張り。シート（フィルム）を活用する。
CO₂を液化燃料に再利用（国交省と企業が検討中）。
リサイクル品を利用する。
ゴミを出さない。食料品は持ち帰る。
町内会の植栽に多年草を配布。

夜中のストーブを消す。

自宅が停電しているのに近所のハチンコ屋が営業していた。

今回の震災で、より節電に心がけるように。今後も節電します。

PR方法 ●●●●●●

具体的な節電方法を知らない。
公共交通機関の広告に、暖房に関する記事を掲載する。
テレビやインターネットのCMを有効活用。
SNSや動画サイトで広告。

省エネシールの配布（暖房を1〜2度下げる。ネックウォーマーの活用。カーテンを休ませて下げる）。
シール案/暖房温度を2度下げる。
上手な節水シールの配布（歯磨き洗頭。水をこまめに止める）。
シール案/歯磨き中は水道止める。

節電シールの配布（主電源を切る）。
シール案/照明器具は必ず消す。
1000W以上の掃除機・アイロン・ドライヤー・IH 使用留意。
節電は家計の助け。

それぞれの役割

■企業

温暖化に対する責任を持つべき。
CO₂削減の取組を行う。
CM等で具体的な節電方法を伝える。
電気の効果的な使い方をPRする。
営利のみを考えず、環境を良くするよう考えて行動すべき。

■行政

町内会を通じて市民へのPRを促進する。
「こうすれば良くなる」ということを発信・PRしていくべき。
人々にどのような取組をすべきか詳しく伝えるべき。
効果的な予算配分（広く薄く・狭く深く）を行う。
環境に関する事業への費用を増やす。

■市民

節電に協力する。
消費電力が高い電化製品の使用を抑える。
友人・知人に積極的な声かけを行う。
話題に挙げる・呼びかける。
身近な所にシールを貼って実行する。（町内会参加者）会合の度に節電・温暖化を話題にする。

■その他

（学校）時間を設けてCO₂削減に関する授業を行う。
（学校）子ども達に積極的に授業で教えるべき。
（テレビ・新聞）大変大事な大切なことをPRする。

プロジェクト名：
**NO MORE 電気泥棒
プロジェクト**

Eグループ（公共交通を使うことの価値づけ）

公共交通のハード面～待ち時間・乗り換えのストレスを減らす！

運行状況がリアルタイムで分かる

「〇分で到着」という案内板（市電）の設置	（市民）公共交通に乗りやすい呼びかけ。
スマートフォンで走行中のバス・市電の運行状況を見られるようにする。	（市民）維持費削減のため掃除ロボコンチャイア。
スマホが無い人も見るのでテレビで状況が分かるようにする。	（行政）分りやすい見やすく災害時も利用可能な案内板（太陽光発電など）を設置する。
（企業）運行状況が分かるようなSNSを作る。	（行政）スマホアプリのデザインコンペを行い、民間参入の機会を作る。
災害時、避難所へ移動するバスを運行する。	行政と札幌のIT系ベンチャーが連携し使い易いアプリを開発する。
災害時にバス停で情報収集（ターミナル）。	（企業）自社ポイントカードのポインタをSAPICAに切り替える。
（市民）SNSに運行状況を投稿する。	（バス事業者）連携してバス案内を統一する。

乗り物のデザイン

写真を取りたくなるようなレトロモダンなバス（ロンドン赤バス・仙台観光バスなど）。

定期券購入を簡単に

バス+地下鉄の定期券が機械で買えるようにしたい。

待合の充実

バス時間、冬期間の遅れの解消。
バス待合室の増設。

駅施設の充実

トイレの設置（地下鉄ホーム）。

乗継で動線を快適に！ ～乗換環境を充実～

いつでも（ちょっと待てば）乗れる公共交通。
バス待合室の増設。

乗りの遅きの拡大。タクシージャパンバス+地下鉄・JR、地下鉄・市電+JR・タクシー。

地下遊歩道が滑ると歩きづらい。バス降車場から地下鉄までの距離が長い。

JR 駅と地下鉄駅の乗り換え動線の確保（風雪に左右されない）。駅から駅への循環バスの導入（10～15分毎、バスの小型化）。

需要に合った車両 ～バスの小型・縮小化

乗車時間を短くして座席を減らす（後部座席のみとか）。

運転手の確保（免許の緩和）。大型二種⇒中型・普通二種。

路線を分かりやすく！

乗り場が分かりにくいのを改善。路線番号とバスマークで誰でも分かるように。

初めての人でも乗りやすいシンボルな路線と案内。

乗にお得に公共交通を利用。

徒歩も自転車もやってみると楽しいお得！

コストがかかる。

コストの問題。

SAPICA は効率的な使い方に逆行している（札幌市以外では使えない）。

プロジェクト名：
乗って楽しい、
乗ってお得～
楽得交通
プロジェクト

公共交通のソフト面～もっと身近で便利な SAPICA

年代別のプレミア

敬老バスの年齢引き下げ。

65～69歳の未就労者に優待乗車証を発行する。

敬老バスという名称はやめて、年齢に応じたチャージシステムにすればよいのでは？

（札幌市）割引バスの利用を進める検討会を立ち上げる。

（行政）割引だけでなく、サービスでプレミアをつける。

敬老バス受給資格が有っても利用申請していない人がいるので、タクシージャケット等を出す。

（札幌市）割引バスの利用促進を図る検討会を立ち上げ、バスを発売する。

公共交通×公共施設

札幌市の文化観光施設と地下鉄の同時利用で割引チケット。

公共交通と自動車利用の共存

公共交通利用者（〇万円以上利用者）にカーシェア助成・無料自動車を講置（スズの運転でも安心）。

パークアンドライドの取組で最寄りの駅で自動車から乗り換える時、駐車場料金がかかる。

駐車場の確保はできているか？

イベントに応じて料金割引

スポーツ観戦時に公共交通を利用すると割引。

サークル等の会費では、公共交通の費用を割り引く。

企業への奨励・サポート

企業等は公共交通で通勤する職員へ「エコ手当」を支給する。

企業への利用義務化（通勤・出張の〇%は公共交通で）。

利用者数を増やす。

損益分岐点を見つめる。

プレミアをつける

SAPICA 高額チャージで札幌スタイルホテルホルダー（初言ミク、シマフクロウ等 500円）

（札幌スタイルのメーカー・企業）地下鉄コラボグッズを作る。

（行政・企業）プレミアポイントを見える化する（使えば使うほど貯まる状況が分かる）。

どの交通機関でも使える

全公共交通で共通、かつチャージでお得になる新 SAPICA。

公共交通に一枚のカードで乗車できるようにする。

JR で SAPICA が使える。

タクシードで SAPICA が使える。

タクシード最寄り駅まで（または5分以内など）半額（SAPICA 利用者のみ）。

料金体系を変える

土日は SAPICA 使い放題。

公共交通を利用するほど、費用が安くなるようにする。

初乗り料金を安くする（SAPICA 利用者のみ）。

暮らしに役立つ SAPICA

SAPICA をコンビニで使えるようにする。

公共交通利用ポイント⇒減税（SAPICA 申告）。

（企業）お店で SAPICA を使えるように整える。

（企業）SAPICA 割引を導入する。

子ども向けサービス

札幌祭りなど、郷土の日限定でのサービス化（子ども料金など）。

公共交通サービスを向上させる。

子どもにおやつ（地下鉄オリジナル）をいれよう。

（学校・幼稚園）乗り方教室を開く。

Fグループ：検討課題「CO₂を削減するためのノーカーデー等の取組に対する市民への周知不足

ノーカーデーの課題

宣伝だけでは市民は動かない

さわやかノーカーデー、平成6年から実施とは知らなかった。イメージソングで覚えよう。「エコきっぷ」の復活。

市域か市街地限定か

札幌をハジに！（ノーカーデー）。
5日・20日はどうか。
5日・20日は、まちなか歩行者天国。

市民

町内会などが、地域を巻き込む。家に止まっても動いている車。充電などに活用している場合も。例：OOちゃん体操（人が集まる場所でPR）。

企業

企業ぐるみの取組を。「エコ通勤」の推進（例：会社単位でノーカーデー）。公共交通を活用して物流する。路面電車×運輸会社（コラボ）。会社による駐輪場の整備。優良企業を表彰。

行政

飲んで帰ろう！プレミアムフライデーとコラボ（ビール会社など）。地域性によるニーズがある。多言語対応を充実させる。他の施策との連携を（例：迷惑駐車防止）。路面電車の改善、延伸。

インパクトが大切

みんなの頭に残る歌。
インパクトあるキャッチコピー。
CO₂削減大使の任命！
（行政）北海道出身の人を起用したCMを作る。

媒体による広報

広報の強化。
回覧板などを使って周知する。
学校・会社にパンフレット等を置いてみる。

ただ今のCO₂排出量の数値化！

効果が見える取組を。

民間の活用

（行政）歌・大使・キャッチコピーを検討する民間チームを作る。
（市民）民間チームに積極的に参加する。

市長も私もノーカーデー

市長自ら実践する。
（市長）さわやかノーカーデーののほり付きの自転車通勤。
（企業）社長も私もノーカーデー。

その他の取組

（企業（飲食店））協賛企画（ビール1杯無料など）。
（テレビ・ラジオ）テレビ父さんの街角インタビュー。
さわやかノーカーデーの日は駐輪場がタダ！
（市営地下鉄・バス会社）ノーカーデーでポイント付与。

プロジェクト名：市長も私も（さわやか）ノーカーデープロジェクト

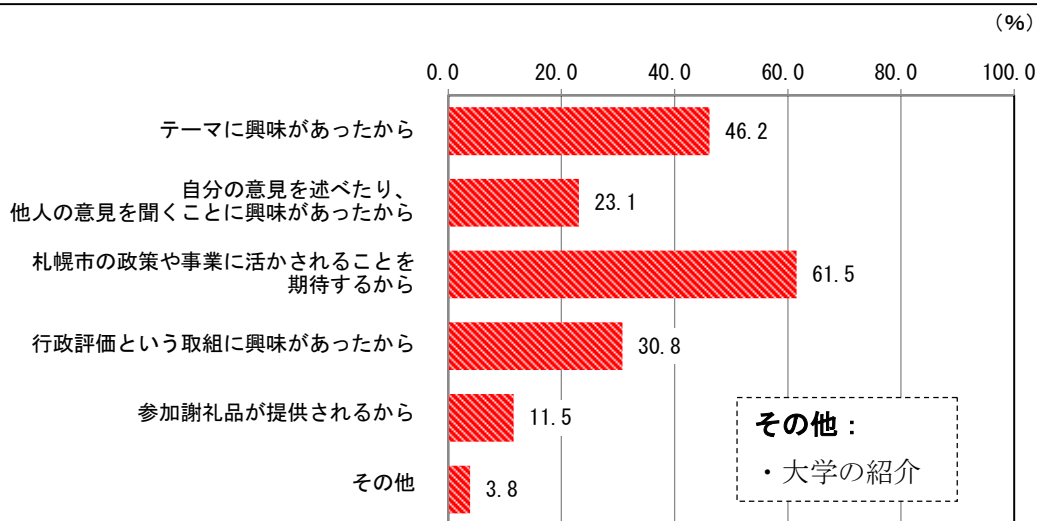
- ノーカーデー、地下鉄駅でのPRは効果が強い。
- 月に何回か車のナンババー（偶数・奇数）で休む車を決める。
- 「ノーカーデー」の響きが素晴らしい。
- ノーカーデー周知の結果を定期的に「広報さっぼろ」等で発表。
- ノーカーデー当日は駐車場料金を上げて、公共交通を安くする。
- 各団体の長を利用するのは、良い考えだと思う。
- 歩くのが一番。
- 親会社から決められた日程のために、ノーカーデーすらできない下請企業がある。
- 学校・会社でノーカーデーを呼び掛ける。
- 乗る人が少ない時間帯は小型バスにする。
- バスの本数が減っているところがある。元にもどしてほしい。

4 参加者アンケートの結果

第2回ワークショップ当日、プログラム終了後に参加者に対してアンケート調査を行い、第1回、2回ともご出席くださった26名の方々からご回答をいただきました。

設問1) 市民参加ワークショップ参加の理由 (N=26、複数回答)

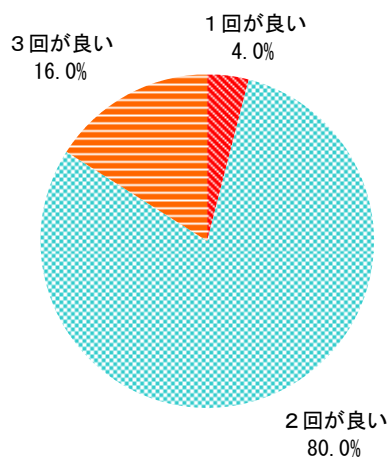
今回、市民参加ワークショップに参加することを決めた理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



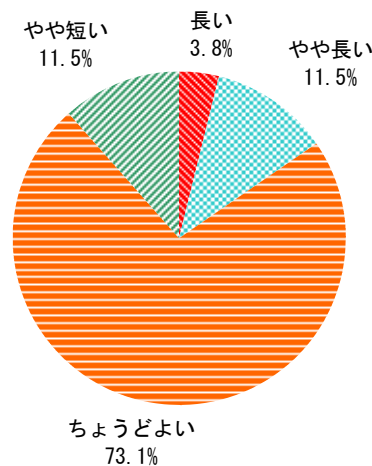
設問2) 市民参加ワークショップの設定について

今回の市民参加ワークショップの設定について、どのように感じられましたか？
5段階のうちあてはまるもの一つに○をつけてください。

・回数 (2回実施) について (N=25、単数回答)

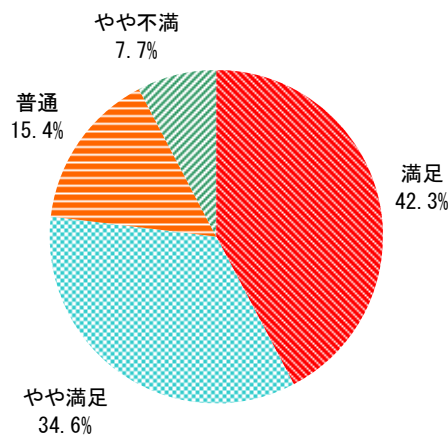


・議論の時間について (N=26、単数回答)



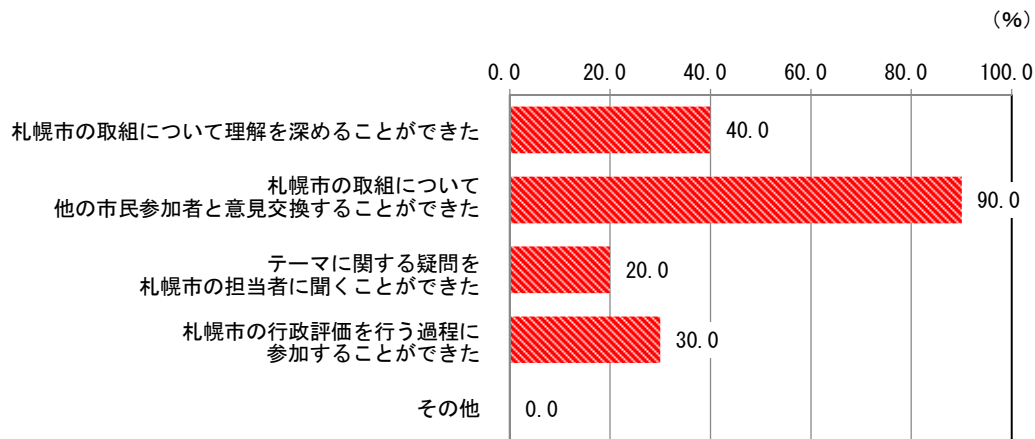
設問3) 市民参加ワークショップの満足度 (N=26、複数回答)

今回の市民参加ワークショップに参加した満足度について、あてはまるものひとつに○をつけてください。



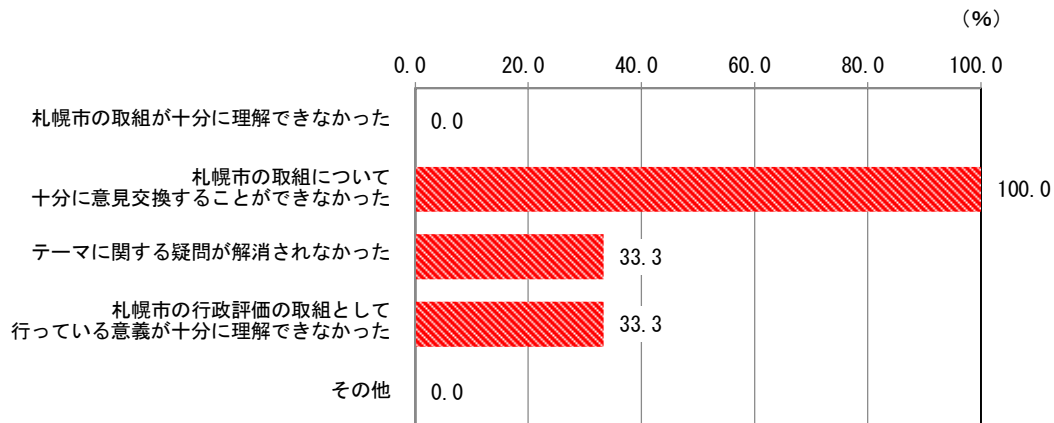
・「満足」の理由 (N=20、複数回答)

「満足」または「やや満足」と答えた方にお尋ねします。※
 どのような点に満足されましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。
 (※非該当で回答された方1名も含めて集計)



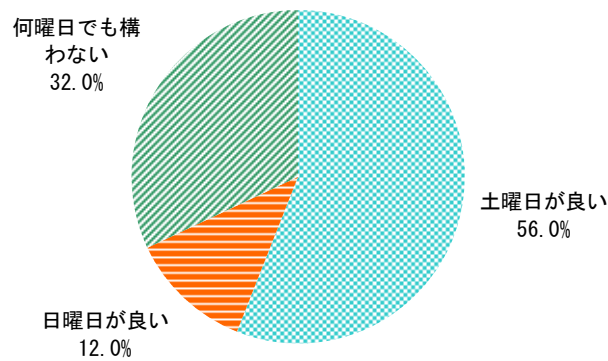
・「不満」の理由 (N=3、複数回答)

「やや不満」または「不満」と答えた方にお尋ねします。※
 どのような点に不満を感じましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。
 (※非該当で回答された方1名も含めて集計)



設問4) 市民参加ワークショップの開催曜日 (N=25、複数回答)

今回のワークショップは土曜日に開催しました。今後、このような取組にあなたが参加される場合、何曜日の開催が望ましいでしょうか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



設問5) 自由意見 (N=14)

ワークショップの取組全体を通して、より多くの方にご参加いただけるワークショップにしていくための工夫・アイデアなど、ご意見、ご感想がございましたらお書きください。

ワークショップの設定・運営等について

- ・議論はちょうど良いですが説明は長い感じがしました。
- ・性別、年代共に様々な方と意見効果が出来ました。KJ 方の議論も良かったと思います。楽しく参加出来ました。ありがとうございました。
- ・人数が少なすぎて盛り上がりには欠ける。少し堅苦しい。

- ・参加者セレクトは無作為と伺っていましたが通り、色々な方が参加され、色々な意見が出て、有意義なものとなりました。これからは一層、エコに取り組んでいきたいと思います。
- ・自分一人で思っている事をみなさんと共有できて改めて考えさせられました。

行政評価・市民参加ワークショップの取組について

- ・私がワークショップ開催を知ったのが、大学の教授からの紹介でした。紹介が無ければ知りえなかったと思います。大学生の中には行政の評価に参加したいという人が多くいると考えられるので、各大学への呼びかけに力を入れると良いと思います。
- ・札幌市の取組を知るきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・ワークショップの結果を、どのように活用するのかがわかると、参加意欲にもつながりますし、当日のやる気も増えると思います。良いアイデアがうもれてしまわないように、内容をきちんと市の内部でも見て、ご議論につなげて頂ければと思います。
- ・幅広く意見をかわす良い機会だと思います。もっと回数を増やせたらさらにたくさんの意見が出て“よりよい札幌市”になると思います。これからも機会があれば参加したいです。
- ・参加したことが、どの様に生かされたかを知ること、参加しようという気持ちになると思う。どうなったかを市民に知らせること。
- ・沢山の方の意見が聞けてよかったと思います。機会があれば参加したく思います。どうもありがとうございました。
- ・検討テーマを公募しては、今回の報告書のダイジェスト版を出席者に郵送してください。
- ・自分の知らないことを知れたことが有意義でした。

検討テーマ「市民・企業による CO₂削減の取組の推進」に関して

- ・普段は流してしまうことが多いです（考えたり工夫したりしなければと思いながらも）。この間真剣に考えました。このことをキッカケにして、まわりの方、家族とも話してみようと思いました。ありがとうございました。

その他

- ・札幌市は危機意識があるのか疑問。今般のブラックアウトに対する多様な課題を分析し、対策を構築し、しっかりと情報提供、市民との情報共有する取組を望みます。政令都市札幌市は、北海道の核として積極的にリーダーシップをとってほしいと思います。

<特記事項>

- ① Nとは、比率算出の基礎となるサンプル数のことである。
- ② 各回答の比率は、回答者数の分母とした百分率であり、小数第2位を四捨五入して表している。
- ③ 1人の対象者につき2つ以上の複数回答を認めた質問の場合は、回答者数を分母としているため、個々の比率の合計は、100.0%を超えることがある。

5 使用した資料

検討テーマ「市民・企業による CO₂ 削減の取組の推進」ご説明資料

平成 30 年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

行政評価委員会・市民参加ワークショップの役割と位置づけ

行政評価委員会について

市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の附属機関で、市役所外部の専門家から構成されています。

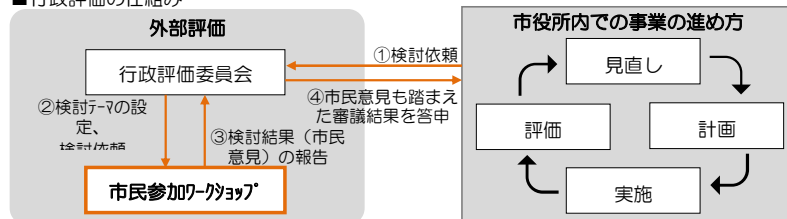
札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について審議し、行政では気づかない点を評価するのがその役割です。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、**市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマについて、市民の方々からご意見をお聞きするために実施するものです。**

市民ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用されます。

■ 行政評価の仕組み



行政評価 市民参加ワークショップにおける検討テーマ選定理由

地球温暖化が原因と言われている大雨による洪水被害、炎暑が日本各地で起こっており、世界でも異常気象によるさまざまな災害が生じています。

地球温暖化の主な原因は、二酸化炭素 (CO₂) をはじめとする温室効果ガスの排出量増加であるとされており、CO₂ をなるべく出さない脱炭素社会を実現することは、世界共通の目標です。

このような状況を踏まえ、札幌市では「環境首都・札幌」を掲げ、2030 年には CO₂ をはじめとする温室効果ガスの排出量を 1990 年比で 25%削減するという目標を設定しています。

また、札幌は国内の他の都市と比べ、市民生活・企業活動における冬期間のエネルギー使用量が多いことなどから CO₂ 排出量が大変多いまちであり、CO₂ 排出削減のためには、市民・企業による取組が不可欠です。

このような観点を踏まえ、札幌市行政評価委員会では、市民ワークショップで検討いただくテーマとして「**市民・企業による CO₂ 削減の取組の推進**」を設定いたしました。

市民参加ワークショップについて

ご検討いただくこと

検討テーマ「**市民・企業による CO₂ 削減の取組の推進**」に則り、次のことについてご意見をいただきたいと思います。

第 1 回ワークショップ (8 月 25 日〔土〕):

市民・企業による CO₂ 削減に関する課題の提起・抽出

第 2 回ワークショップ (9 月 9 日〔日〕):

課題を解決するために、市民・企業・行政はどのような取組を行うべきか

第 1 回ワークショップまでにお願しいたいこと

1. 本説明資料をよくお読みください

ワークショップでは、説明や質疑応答の時間はなるべく短くして、皆様からアイデア・ご意見をいただく時間を長くとりたいと考えています。そのため**お送りした資料を事前によくお読み頂きますようお願いいたします。**

2. 「希望サブテーマ・事前質問 調査票」をお送りください

同封した「希望サブテーマ・事前質問 調査票」に下記を記入の上、**8 月 20 日 (月) までに到着するようご返信ください。**

- ① 検討いただくに当たって、いくつかのサブテーマごとにグループを分けます。**どのサブテーマについて検討したいかをお書きください。**
- ② 検討テーマや札幌市の取組、行政評価、ワークショップについて**ご質問・疑問点があればお寄せください。**第 1 回ワークショップにて回答します。

3. ワークショップテーマについてお考えください

ワークショップがより活発に行われるよう、お時間がありましたら、「**市民・企業が CO₂ 削減に取り組むに当たっての課題や、CO₂ 削減のために行うべき工夫**」について、**ご自身が感じられる「課題」などをお考えいただければ幸いです。**事前質問票でお送りいただく必要はございません。

ワークショップの進め方

- ・ご参加の皆様には 5~6 名程度のグループに分かれていただき、専門のテーブルファシリテーター (司会者) の司会・進行により、話し合いを行っていただきます。
- ・模造紙やふせん、シールなどを使った作業を通じて、気軽な雰囲気の中、話し合いを進めて

地球温暖化の現状

地球温暖化とは

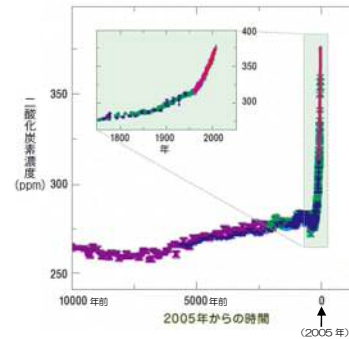
- 人間の活動により、大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、地球全体の気温が上昇する現象のことです。
- これにより、大気や海洋の平均温度の上昇、気候変動が引き起こされると考えられています。



資料：全国地球温暖化防止活動推進センター

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素濃度の上昇

- 地球温暖化の主な原因となる温室効果ガスには、さまざまな種類がありますが、中でも二酸化炭素は最も排出量が多いことから、影響度が大きい温室効果ガスです。
- 主に化石燃料の消費によって発生し、約 200 年前の産業革命以降、急激に濃度が上昇しています。



資料：気候変動に関する政府間パネル第 4 次評価報告書第 1 作業部会報告書より作成

地球温暖化の影響

世界的な影響

- 地球温暖化は、我々の生活基盤を根底から脅かすような変化を地球規模で引き起こすと言われていています。
- 早期に十分な対策を講じなければ、人類を含むあらゆる生物は甚大な被害を受けることになってしまいます。



日本における影響

- 地球温暖化による影響は、日本でも表面化してきており、下図のようなさまざまな問題が生じています。
- また、集中豪雨やゲリラ豪雨、竜巻など、極端な気象・気候も増加しており、これまでの治水・利水計画の基準や計画の考え方などが見直されつつあります。



世界・我が国における対策

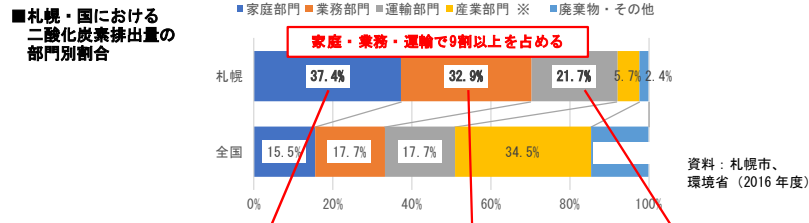
- このような状況を踏まえ、2015(平成 27)年、気候変動枠組条約に加盟する 196 国により「パリ協定」が採択されました。「パリ協定」では、世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して+2 度未満に抑えることなどが掲げられています。
- 我が国においても 2016(平成 28)年に「地球温暖化対策計画」を策定しました。2030(平成 42)年度までに 2013(平成 25)年度比で温室効果ガス排出を 26%削減する中期目標を掲げています。

札幌の CO₂ 排出量の現状

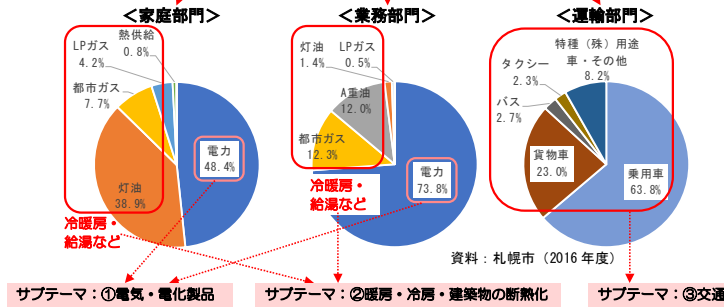
二酸化炭素の部門別排出量の比較

- 札幌の二酸化炭素排出量は、全国と比較して家庭・業務・運輸部門※の割合が高く、これら3部門で約9割を占めています。
- 家庭・業務部門では**電力**と**暖冷房・給湯など**、運輸部門では**乗用車**の割合が高くなっており、これらに関する対策が必要です。

(※「業務部門」は事務所・店舗等、「運輸部門」は自家用車等も含む交通機関、「産業部門」は農林水産業・鉱工業における排出量です)

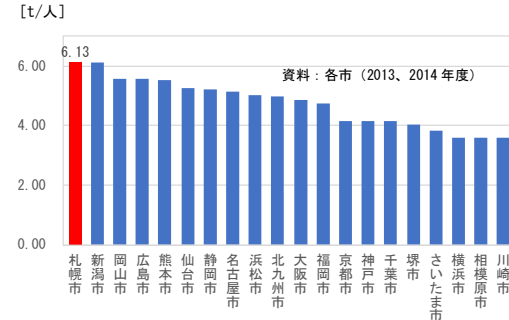


■札幌における各部門の二酸化炭素排出量の内訳



他都市との家庭・業務・運輸部門の二酸化炭素排出量の比較 (1人あたり)

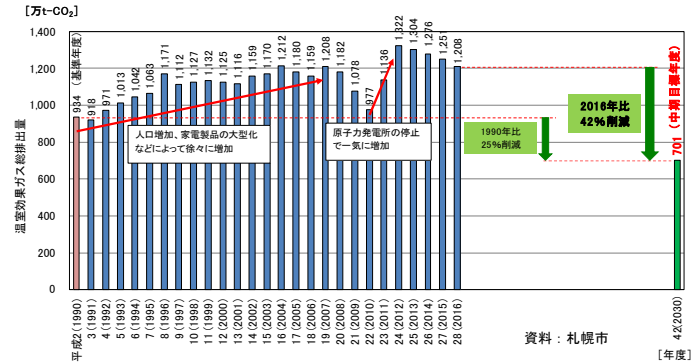
- 家庭・業務・運輸部門の二酸化炭素排出量を政令指定都市間で比較すると、札幌市は一人あたり排出量で 6.13 トンと、一番多くなっています。
- 原因としては、積雪寒冷地であるため冬季の暖房使用が多いこと等が考えられ、札幌市における二酸化炭素排出量の削減には、市民一人ひとりの取組が重要です。



札幌の CO₂ 排出量の推移と目標

札幌の温室効果ガス排出量の推移と目標

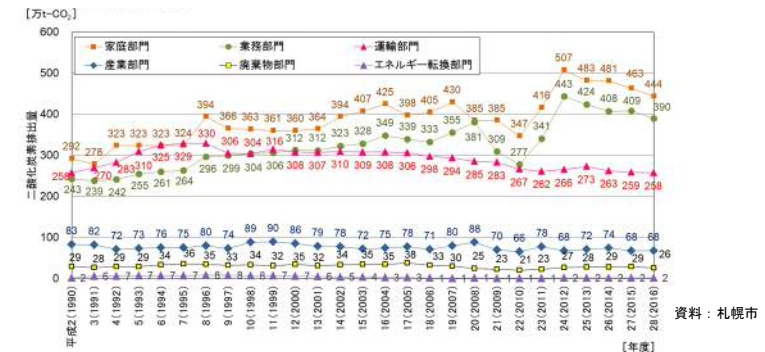
- 札幌の温室効果ガスの総排出量は、1990 年以降、概ね増加傾向で推移しています。
- 札幌市では二酸化炭素排出量を 1990 年比で 25%削減する目標を掲げていますが、そのためには最新の 2016 年比で 42%削減する必要があります。



各部門の二酸化炭素排出量の推移

- 家庭・業務部門は人口や世帯数、店舗面積などに伴い、概ね増加傾向にあります。
- 一方、運輸部門は減少傾向にありますが、これは、次世代自動車や低燃費車、エコドライブ※などの普及によるものと考えられます。

(※「エコドライブ」とは、自動車の穏やかな発進・停止、アイドリングストップといった環境に優しい運転方法のことです。自動車の利用を減らすことを含む場合もあります)



このページでご説明した状況を踏まえ、下記サブテーマに分かれて話し合ってください！

①電気・電化製品 ②暖房・冷房・建築物の断熱化 ③交通

(参考) 札幌市による「市民・企業による CO₂削減の取組」を推進するための主な事業等

札幌市による取組の方針

札幌市では 2018 (平成 30) 年 3 月「第 2 次札幌市環境基本計画」を策定しました。この中で「市民・企業による CO₂削減の取組」に関連して、次のような「施策の方向」を打ち出しています。

①徹底した省エネルギー対策の推進

- ・冬季の暖房エネルギー消費量を減らすため、住宅・建築物の高断熱・高気密化、省エネルギー設備の導入、そのための普及啓発を進めます。
- ・自動車から公共交通機関への転換、次世代自動車の普及を進めます。

②再生可能エネルギーの導入促進

- ・太陽光発電、風力発電、小水力発電、木質バイオマス※の利用など、道内の資源等を活用した再生可能エネルギーの導入を促進します。

(※「木質バイオマス」とは樹木由来の資源のこと。使われない枝や葉、端材、廃材等を指します)

③水素エネルギーの活用

- ・水素を燃料とする燃料電池の普及に向けて取り組みます。

札幌市による主な事業

上述した取組方針などを踏まえて札幌市はさまざまな事業を行っています。主な事業を市民参加ワークショップのサブテーマごとに整理しました。

①電気・電化製品…に関して

さっぽろスマートライフ推進事業	ムダなく、かしく、省エネ・節電を楽しむライフスタイルの啓発、家庭のエネルギー使用状況を診断する「うちエコ診断」など、市民に対する各種普及啓発を行います。
電力見える化プロジェクト事業	市有施設の効率的なエネルギー利用の促進・節電の取組強化のため、使用電力を監視する装置を設置し、電力の見える化を実施します。
環境マネジメントシステム事業	市内の環境負荷低減を目指し、市役所において、環境保全の取組を継続的に改善する仕組み(環境マネジメントシステム)を運用するほか、事業者への環境配慮活動の支援を実施します。
LED 街路灯推進事業	街路灯の老朽化に伴う建替え時に LED 灯具を設置します。
太陽光発電システム修繕事業	学校における設置後 10 年以上経過した太陽光発電システムについて、計画的な機器の更新を行います。
図書館照明 LED 化事業	市有施設である図書館の消費電力削減のため、閲覧室及び書庫等の照明を LED 化します。

②暖房・冷房・建築物の断熱化…に関して

さっぽろスマートライフ推進事業	(再掲、上述)
建築物環境配慮推進事業	建築物から排出される CO ₂ を削減するため、札幌市建築物環境配慮制度に基づく環境性能評価ソフト「CASBEE 札幌」の普及啓発を進め、環境性能の高い建物の設計を促進します。

②暖房・冷房・建築物の断熱化…に関して (続き)

高断熱・高気密住宅普及促進事業	住宅の省エネルギー化を促進するため、高断熱・高気密住宅の基準である「札幌版次世代住宅基準」に適合する住宅の建築主に対して建築費の一部を補助するなどの取組を行っています。
環境マネジメントシステム事業	(再掲、上述)

③交通…に関して

エコドライブ活動定着推進事業	各種講習会の開催や運転解析機器の貸出し、運転シミュレーターを用いたエコドライブ体験会などを実施することで、市民・事業者へエコドライブの実践・定着を図ります。
次世代自動車導入促進事業	CO ₂ 排出量が少ない次世代自動車(電気自動車、燃料電池自動車等)への乗換を促進するため、次世代自動車の購入費用の補助、水素ステーション導入への補助等を行います。
公共交通ネットワーク確保対策事業	乗合バス路線維持に係る補助のほか、地域の特性に応じた効率的で使いやすい地域公共交通体系の在り方について検討します。

④全般・普及啓発、その他

温暖化対策推進事業	平成 27 年 3 月に策定した札幌市温暖化対策推進計画に基づき、市内における温室効果ガス排出量の算定や、市民・事業者に対する意識調査の実施など、温暖化対策に向けた取組の進行管理を行います。
札幌市環境プラザ情報発信機能強化事業	札幌市環境プラザにおいて、より実践的な学習内容となるよう展示物を更新し、情報発信力の強化を図ります。
総合的環境教育推進事業	次世代を担う子どもたちを主対象に、エコ行動をチェックできるチェック表「エコライフレポート」の配布、かんきょうみらいカップ・さっぽろこども環境コンテストの実施、環境関連施設見学用バスの貸出などを実施、環境教育を進めます。
札幌版省エネ社会実現事業	積雪寒冷地・札幌ならではの省エネ技術をビジネスの現場で活用できる高い技術を持った事業者・技術者を育成します。

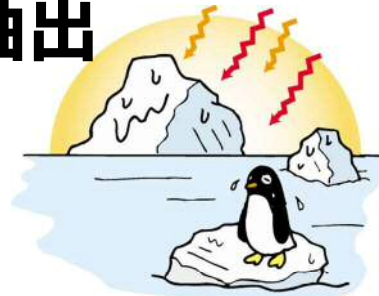
さらに、札幌市による CO₂削減に関する取り組みについて知りたい場合は、下記ウェブページをご覧ください。

- ・第 2 次札幌市環境基本計画：<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/keikaku/newkeikaku/newindex.html>
- ・札幌市温暖化対策推進計画：<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/newplan/index.html>
- ・エコライフの推進：http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/ecolife_suishin/
- ・環境教育：http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/

ワークショップでは、これらの札幌市による事業も頭に置きつつ、各サブテーマに分かれ、「市民・企業による CO₂削減の課題・工夫」「それらを実施するためにどのような取組を行うべきか」についてご意見をいただきたいと思います！ よろしくお願ひします！

平成30年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ 第1回 市民・企業によるCO₂削減に関する 課題の提起・抽出

日時：平成30年8月25日(土) 13:30~17:00
場所：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
主催：札幌市 / 司会・運営：株式会社ノーザンクロス



市民参加ワークショップの目的

市民目線・市民感覚から、
市民・企業によるCO₂削減の取組の推進

…に関して、ご意見をいただくこと

第1回めの目標

電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通における
市民・企業によるCO₂削減の課題

…を抽出し、整理すること

プログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「課題の抽出」
 - ・グループワーク3「課題の評価、検討する課題の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

ワークショップについて

1. ワークショップ（グループワーク）とは：

いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見い出す「体験型／参加型の会議・講座」です。

(意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません)

2. ワークショップの掟：

其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちょっと違うかも」と思っても、恥ずかしがらずに言うこと。

其の二 人の話は途中でさえぎらずよく聞くこと。

其の三 人の言ったことを批判したり茶化したりしないこと。

其の四 他の人が発言できるよう、発言は短めにすること。

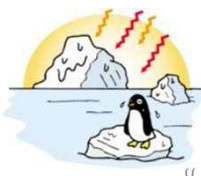
其の五 気軽に明るく楽しく取り組むこと。

memo

平成30年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

検討テーマ：市民・企業による
CO₂削減の取組の推進
**第1回 市民・企業による
CO₂削減に関する
課題の提起・抽出**

日時：平成30年8月25日（土）13:30～17:00
場所：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
主催：札幌市
司会・運営：株式会社ノーザンクロス



1. 開会・主催者挨拶

1

2. ガイダンス、
事前質問票へのご回答

2

行政評価、
市民参加ワークショップの
役割・位置づけ等について

3

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ①

行政評価委員会について

市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の附属機関で、市役所外部の専門家から構成されています。

札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について審議し、行政では気づかない点を評価するのがその役割です。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

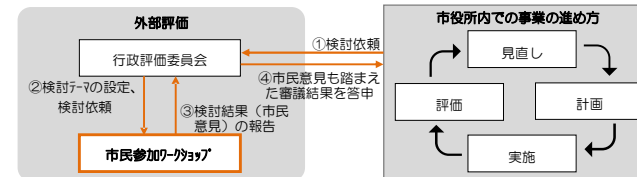
市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、**市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマ**について、**市民の方々からご意見をお聞きするために実施するものです。**

市民ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用されます。

4

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ②



5

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ③ ～スケジュール～

平成30年 5月21日	第1回委員会
" 6月22日	第2回委員会
" 8月9日	外部評価ヒアリング
" 8月25日	市民参加ワークショップ 第1回め
" 9月9日	市民参加ワークショップ 第2回め
" 10月	第3回委員会 (予定)
" 11月	第4回委員会 (予定)
" 12月	第5回委員会 (予定)
平成31年 1月下旬	市長への報告書手交
" 2月	評価結果の公表

6

市民参加ワークショップの目的

市民目線・市民感覚から、
**市民・企業による
CO₂削減の取組の推進**
…に関して、ご意見をいただくこと。

7

市民参加ワークショップの目標

第1回ワークショップ（8月25日）：
電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通における
市民・企業によるCO₂削減の課題
…を抽出し、整理すること

第2回ワークショップ（9月9日）：
課題を解決するために、市民・企業・行政は
どのような取組を行うべきか
…検討すること（取組アイデアの抽出、各種体の役割整理）

内容を絞り込み検討していきます！

8

本日のプログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「課題の抽出」
 - ・グループワーク3
「課題の評価、検討する課題の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

9

検討テーマについて、
事前質問票へのご回答

疑問点があれば黄色のふせんにサインペンで
書き出して！（※1枚のふせんには1つだけ）

10

ワークショップの進め方について

11

ワークショップとは？

- いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見出す「体験型／参加型の会議・講座」
- 意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません

12

親和図法（KJ法）について

- 文化人類学者・川喜多二郎氏（2009年没）が考案したデータ整理・問題解決手法。
- 最初に「枠組み」を示しそれに沿って考えるのではなく、自由に多様な発想を自然にまとめていくことで、何らかの形を見出していく方法。
- 「専制的」ではなく、「民主的」な手法。

13

親和図法（KJ法）の進め方

- ①課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
 - 1枚の付箋には1つだけ！
 - なるべく簡潔に！具体的に

○ 良い例

すぐ近くに行くときにも自動車を使ってしまう

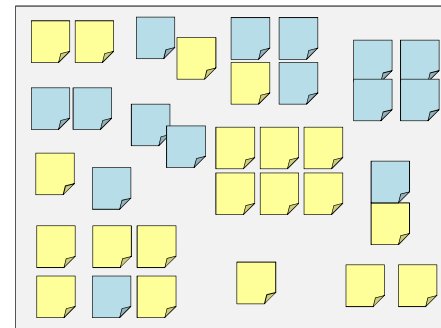
× 悪い例

・自動車は文明が生んだとても便利な道具です。
 ・しかし、自動車を使うときにはガソリンを消費しますので、必然的に二酸化炭素を排出してしまいます。
 ・お体の不自由な人などは仕方がないと思うのですが、各自が二酸化炭素削減について自覚し…

14

②模造紙（ワークシート）に付箋を貼り付け

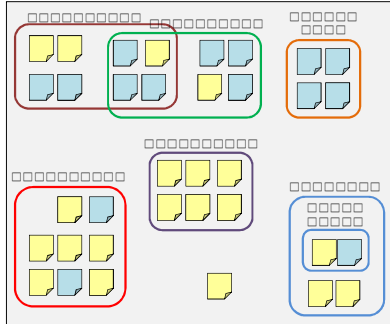
- 一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関係のありそうなもの同士が近くなるよう貼付け！
- 一見つまらなく思えるものも捨てずに貼り付ける！



15

③島づくりとタイトル付け

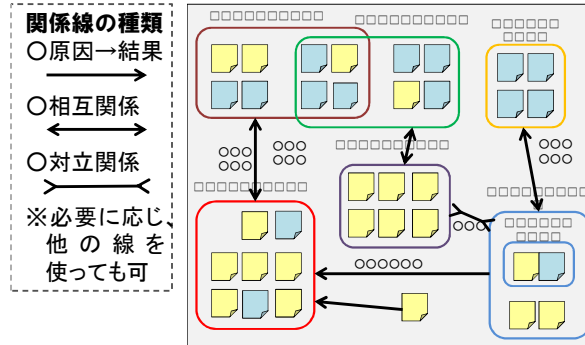
- 整理しつつ、似たもの同士を線で囲み「島」をつくる
- それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に！
- 島にならないもの(離れザル)も捨てない！



16

④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

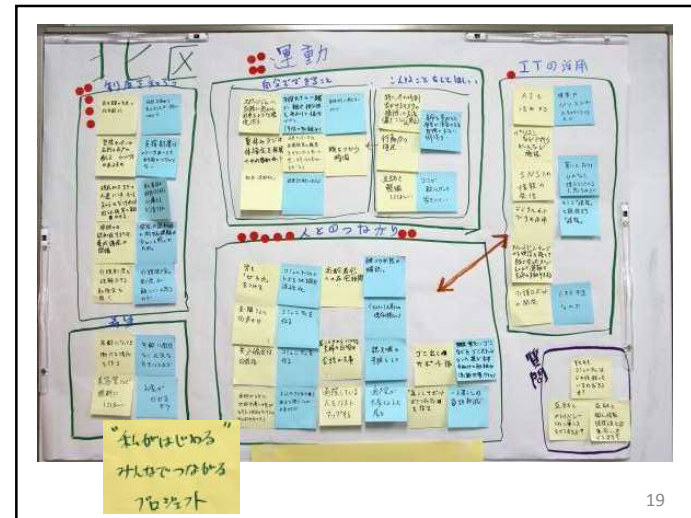


17

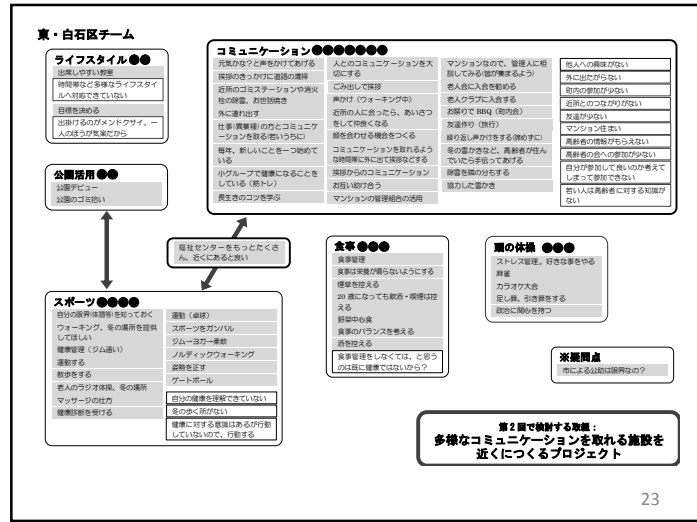
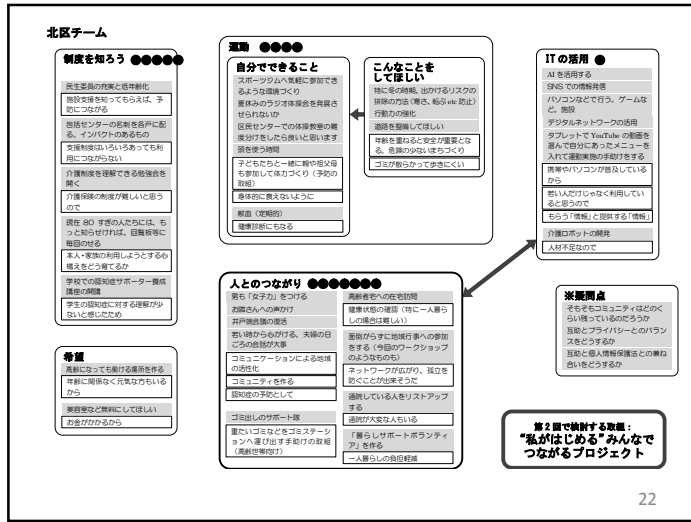
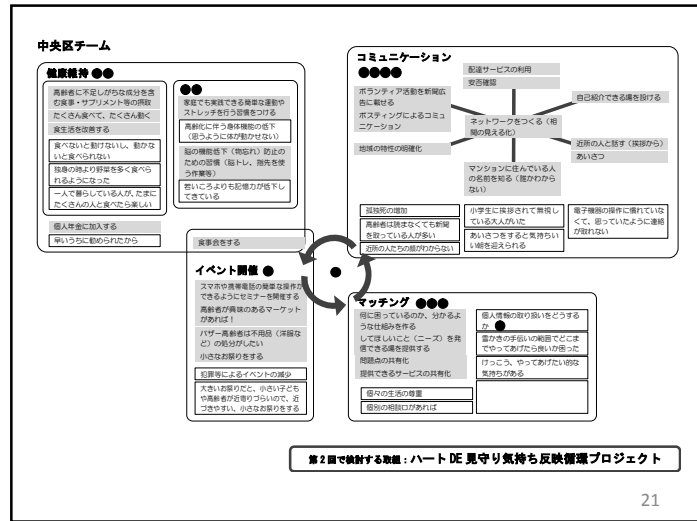
61



18



19



とても大切!

ワークショップの掟

- 其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちょっと違うかも」と思っても、**恥ずかしながらに言ってみること**
- 其の二 人の話は途中でさえぎらず**よく聞くこと**
- 其の三 人の言ったことを**批判したり茶化したりしないこと**
- 其の四 他の人が発言できるよう、**発言は短めにすること**
- 其の五 **気軽に明るく楽しく取り組むこと。**

24

3. グループワーク

25

アイスブレイク「他己紹介」

26

1. 氏名(姓、下の名前とも)
2. 出身地
3. 自分が行っている「エコ」な行動

27

1. 氏名(姓、下の名前とも)
2. 出身地
3. その人が行っている「エコ」な行動
4. その人が**実は隠れて行っている「エコ」な行動や、ちょボラ、社会貢献**

28

市民参加ワークショップの目的

市民目線・市民感覚から、

**市民・企業による
CO₂削減の取組の推進**

…に関して、ご意見をいただくこと。

29

市民参加ワークショップの目標

第1回ワークショップ(8月25日)：
電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通における
市民・企業によるCO₂削減の課題
…を抽出し、整理すること

第2回ワークショップ(9月9日)：
課題を解決するために、市民・企業・行政は
どのような取組を行うべきか
…検討すること(取組アイデアの抽出、各種体の役割整理)

内容を絞り込み検討していきます！

30

グループワーク1「追加の疑問点抽出」

- 「ガイダンス・事前質問票への回答」時にふせんに書いた「追加の疑問点」を模造紙に貼り出し
- 必要に応じて整理
- 早めに終え(10分以内) グループワーク2へ！
- 出された疑問には次回お答えします！

31

グループワーク2「課題の抽出」

電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通、それぞれにおける...

市民・企業による
**CO₂削減
の課題**

...を書いて模造紙に
貼り出し、整理

- ・具体的に、どんな意識・行動・仕組みが課題になっているか
- ・こんな意識・行動・仕組みになれば(あれば)CO₂削減は進む!
- ・やった方が良いと思っているのにできていないこと、すべきこと
- ・4W1H(いつ、どこで、だれが、どのくらい)
- ・自分は? 親戚は? 周囲の友人・知人は?

32

親和図法 (KJ法) の進め方

- ①課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
○1枚の付箋には1つだけ!
○なるべく簡潔に! 具体的に

○ 良い例

すぐ近くに行くときにも自動車を使ってしまう

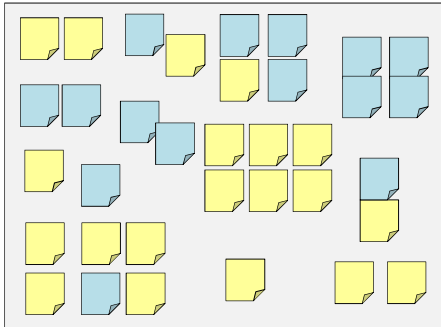
× 悪い例

・自動車は文明が生んだとても便利な道具です。
・しかし、自動車を使うときにはガソリンを消費しますので、必然的に二酸化炭素を排出してしまいます。
・お体の不自由な人などは仕方がないと思うのですが、各自が二酸化炭素削減について自覚し...

33

②模造紙(ワークシート)に付箋を貼り付け

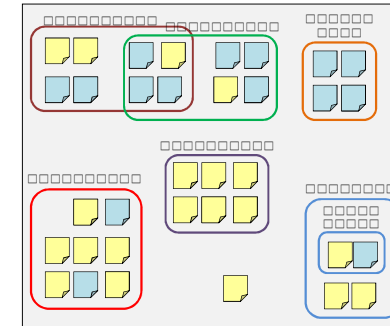
- 一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関係のありそうなもの同士が近くなるよう貼付け!
- 一見つまらなく思えるものも捨てずに貼り付ける!



34

③島づくりとタイトル付け

- 整理しつつ、似たもの同士を線で囲み「島」をつくる
- それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に!
- 島にならないもの(離れザル)も捨てない!



35

④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

関係線の種類

- 原因→結果
→
- 相互関係
↔
- 対立関係
⇄

※必要に応じ、他の線を使っても可

36

グループワーク3
「課題の評価、検討を進める課題の決定」

①課題の評価

- 個々人で、特に「取り組むべき！」と考える**課題**(島)にシールを貼付け(投票)
- シールは1人○票をお渡し(票数はテーブルファシリテーターにて判断)

↓

37

グループワーク3
「課題の評価、検討を進める課題の決定」(続き)

↓

②検討を進める課題の決定

- 投票結果を参考にしながら、**話し合い**で検討を進める課題を決めてください
- わかりやすく「課題」を文章化(○○が××であること、課題は□□…など)
- 「課題記入シート」(黄色の紙)に記入

38

4. 全体ワーク

39

グループ発表

- 作成した模造紙(ワークシート)に基づいて話し合いの内容を発表
- 具体的には:
 - ・どのような「島」ができたのか
 - ・今後検討する課題にどのようなことを選んだのか(「課題記入シート」記入内容読み上げ)
- 1グループ10分以内をお願いします!

40

**第2回ワークショップは
9月9日(日)
13:30~17:00です!**

41

平成30年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

第2回までの
宿題！

アイデア書き出しシート

私たち _____ チームが検討を進める「課題」は：

「課題」を解決するためのアイデアを記入！：

ふせんに記入！ 足りなければ
この枠内や裏面に記入！

記入したふせん、このシート、サインペンは、次回忘れずに持参願います！

平成30年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ 第2回

課題を解決するために、 市民・企業・行政は どのような取組を行うべきか



日時：平成30年9月22日（土）13:30～17:00

場所：札幌市本庁舎6階 会議室

主催：札幌市 / 司会・運営：株式会社ノーザンクロス

市民参加ワークショップの目的

市民目線・市民感覚から、
市民・企業によるCO₂削減の取組の推進

…に関して、ご意見をいただくこと

第1回めの目標

電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通に関する…
**課題を解決するために、市民・企業・行政は
どのような取組を行うべきか**

…検討すること（取組アイデアの抽出、各種体の役割整理）

プログラム

1. 開会
2. ガイダンス、前回の振り返り
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「課題解決アイデアの抽出」
 - ・グループワーク2「課題解決アイデアの評価」
 - ・グループワーク3「課題解決アイデア実施・実現のために、市民・企業・行政はどのような役割を担うべきか」
 - ・グループワーク4「課題解決プロジェクトの命名」
4. 全体ワーク
5. 市民参加に関する情報提供
6. 主催者挨拶
7. 閉会

ワークショップについて

1. ワークショップ（グループワーク）とは：

いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見出す「体験型／参加型の会議・講座」です。

(意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません)

2. ワークショップの掟：

其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちょっと違うかも」と思っても、恥ずかしがらずに言うこと。

其の二 人の話は途中でさえぎらずよく聞くこと。

其の三 人の言ったことを批判したり茶化したりしないこと。

其の四 他の人が発言できるよう、発言は短めにする。

其の五 気軽に明るく楽しく取り組むこと。

memo

平成30年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

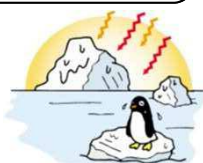
検討テーマ：市民・企業による
CO₂削減の取組の推進
第2回 課題を解決するために、
市民・企業・行政は
どのような取組を
行うべきか

日時：平成30年9月22日（土）13:30～17:00

場所：札幌市本庁舎6階 会議室

主催：札幌市

司会・運営：株式会社ノーザンクロス



1. 開会

1

2. ガイダンス、前回の振り返り

2

行政評価、
市民参加ワークショップの
役割・位置づけ等について
（再説明）

3

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ①

行政評価委員会について

市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の附属機関で、市役所外部の専門家から構成されています。

札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について審議し、行政では気づかない点を評価するのがその役割です。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

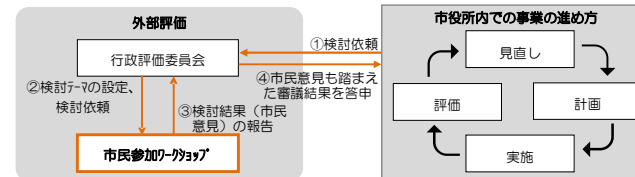
市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、**市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマ**について、市民の方々からご意見をお聞きするために実施するものです。

市民ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用されます。

4

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ②



5

市民参加ワークショップの目的

市民目線・市民感覚から、
**市民・企業による
CO₂削減の取組の推進**
…に関して、ご意見をいただくこと。

6

市民参加ワークショップの目標

第1回ワークショップ（8月25日）：
電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通における
市民・企業によるCO₂削減の課題
…を抽出し、整理すること

第2回ワークショップ（9月22日）：
課題を解決するために、**市民・企業・行政は
どのような取組を行うべきか**
…検討すること（**取組アイデアの抽出、各種体の役割整理**）

内容を絞り込み検討していきます！

7

本日のプログラム

1. 開会
2. ガイダンス、前回の振り返り
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「課題解決アイデアの抽出」
 - ・グループワーク2「課題解決アイデアの評価」
 - ・グループワーク3「課題解決アイデア実施・実現のために、市民・企業・行政はどのような役割を担うべきか」
 - ・グループワーク4「課題解決プロジェクトの命名」
4. 全体ワーク
5. 市民参加に関する情報提供
6. 主催者挨拶
7. 閉会

8

前回の振り返り

9

第1回のプログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「課題の抽出」
 - ・グループワーク3
「課題の評価、検討する課題の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

10

グループワーク2「課題の抽出」

電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通、
それぞれにおける...

市民・企業による
**CO₂削減
の課題**

...を書いて模造紙に
貼り出し、整理

- ・具体的に、どんな**意識・行動・仕組み**が課題になっているか
- ・こんな**意識・行動・仕組み**になれば(あれば)CO₂削減は進む!
- ・やった方が良いと思っているのにできていないこと、すべきこと
- ・4W1H(いつ、どこで、だれが、どのくらい)
- ・自分は? 親戚は? 周囲の友人・知人は?

11

グループワーク3
「課題の評価、検討を進める課題の決定」

①課題の評価

- 個々人で、特に「取り組むべき！」と考える課題(島)にシールを貼付け(投票)
- シールは1人○票をお渡し(票数はテーブルファシリテーターにて判断)

↓

12

グループワーク3
「課題の評価、検討を進める課題の決定」(続き)

↓

②検討を進める課題の決定

- 投票結果を参考にしながら、話し合いで検討を進める課題を決めてください
- わかりやすく「課題」を文章化(○○が××であること、課題は□□…など)
- 「課題記入シート」(黄色の紙)に記入

13

第2回で検討を進める課題

四悪感と
お金

家庭で省エネ家電の
導入を進めたい
(コストに注目)

(SAPP)ROの始める
みらい
(仮) Iコ 等小売店
(仮) 教室との
(仮)

暖房に対する
市民意識の低さ
が課題

公共交通を促す
ことの是非価値あり
とする注目の
重要な課題!

グループの検討課題
CO2削減するための
ノーカー等への取組に
対する
市民への周知不足

14

A (電気・電化製品)

四悪感と
お金

15

B (電気・電化製品)

家庭で省エネ家電の
導入を進めや水
栓には?)
(コストに注目)
グループB

16

C (暖房・冷房・家屋の断熱化)

(SAPP, ROが始める)
みらい
(仮) I I 寺小屋とか
C理E) 教室とか...
(検討中)

17

D (暖房・冷房・家屋の断熱化)

暖房に対する (D)
市民意識の低さ
が課題。

18

E (交通)

公共交通を使う
ことの価値づけ
をするのが
重要な課題!
公共交通性、コスト、フレキシ
(おどろ
-元付)
Group E
(仮、カサ、コン、タカ、ナカ)

19

F（交通）

グループFの 検討課題

CO₂を削減するための
ノーカー等への取組に
対する
市民への周知不足

20

前回出された疑問点への回答

21

ワークショップの進め方について

22

ワークショップとは？

- いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見出す「体験型／参加型の会議・講座」
- 意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません

23

親和図法 (KJ法) について

- 文化人類学者・川喜多二郎氏(2009年没)が考案したデータ整理・問題解決手法。
- 最初に「枠組み」を示しそれに沿って考えるのではなく、自由で多様な発想を自然にまとめていくことで、何らかの形を見出していく方法。
- 「専制的」ではなく、「民主的」な手法。

24

親和図法 (KJ法) の進め方

- ①課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
 - 1枚の付箋には1つだけ！
 - なるべく簡潔に！具体的に

○ 良い例

すぐ近くに行くときにも自動車を使ってしまう

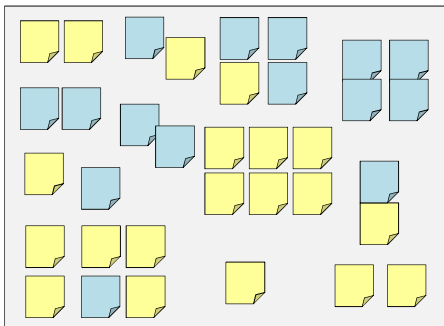
× 悪い例

・自動車は文明が生んだとても便利な道具です。
・しかし、自動車を使うときにはガソリンを消費しますので、必然的に二酸化炭素を排出してしまいます。
・お体の不自由な人などは仕方がないと思うのですが、各自が二酸化炭素削減について自覚し…

25

②模造紙(ワークシート)に付箋を貼り付け

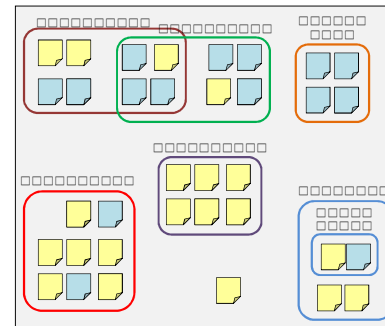
- 一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関係のありそうなもの同士が近くなるよう貼付け！
- 一見つまらなく思えるものも捨てずに貼り付ける！



26

③島づくりとタイトル付け

- 整理しつつ、似たもの同士を線で囲み「島」をつくる
- それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に！
- 島にならないもの(離れザル)も捨てない！



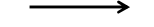
27

④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

関係線の種類

○原因→結果



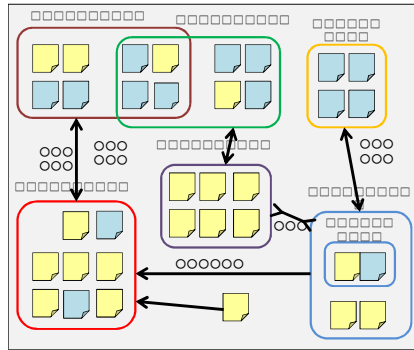
○相互関係



○対立関係



※必要に応じ、他の線を使っても可



とても大切!

ワークショップの掟

- 其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちょっと違うかも」と思っても、**恥ずかしながら言ってみること**
- 其の二 人の話は途中でさえぎらず**よく聞くこと**
- 其の三 人の言ったことを**批判したり茶化したりしないこと**
- 其の四 他の人が発言できるよう、**発言は短めに**すること
- 其の五 **気軽に明るく楽しく取り組むこと。**

3. グループワーク

アイスブレイク「つながる近況報告」

つながる近況報告

最初の人

1. お名前
2. 近況報告＝前回のワークショップ以降行った／しようと考えた「エコ」な行動

2番め～最後の人

1. お名前
2. 前の人が出た近況報告にコメント
(感想、アドバイス、「そういえば私も…」など何でも可！)
3. 自分の近況報告(＝前回のワークショップ以降行った／しようと考えた「エコ」な行動)

最初の人 最後の人が出た近況報告に何かコメント

32

市民参加ワークショップの目的

市民目線・市民感覚から、

**市民・企業による
CO₂削減の取組の推進**

…に関して、ご意見をいただくこと。

33

市民参加ワークショップの目標

第1回ワークショップ(8月25日)：
電気・電化製品、暖房・冷房・家屋の断熱化、交通における
市民・企業によるCO₂削減の課題
…を抽出し、整理すること

第2回ワークショップ(9月22日)：
課題を解決するために、市民・企業・行政は
どのような取組を行うべきか
…検討すること(取組アイデアの抽出、各種体の役割整理)

内容を絞り込み検討していきます！

34

グループワーク1 「課題解決アイデアの抽出」

・「課題」を解決
するための
取組アイデア
・アイデアに付加
するアイデア

・「宿題」で考えてきた
・今日、思いついた

…を模造紙に貼り出し、
整理

35


グループワーク2 「課題解決アイデアの評価」

○個々人で、特に「『課題』の解決に有効」と考える**アイデア**(島)にシールを貼付け(投票)

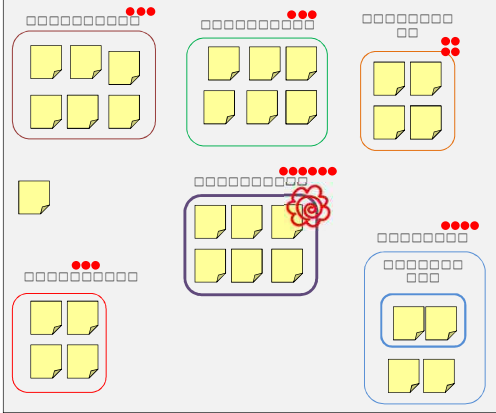
○シールは1人○票をお渡し(票数はテーブルファシリテーターにて判断)

↓

最も票数が多かった**アイデア**(島)に「花丸印」をつける




ワークシートのイメージ(グループワーク2まで)



37

グループワーク3 「課題解決アイデア実施・実現のために、市民・企業・行政はどのような役割を担うべきか」

 花丸をつけた取組アイデアについて...

誰が
・市民、企業、行政、NPO、町内会...
・**具体名も可!**


どんな役割を担うか
・〇〇を担う/行う
・〇〇で支援する
・〇〇を呼びかける...など
・**なるべく具体的に!**

市民
〇〇〇に
協力する

...を模造紙に貼り出し、
整理

38

グループワーク4 「課題解決プロジェクトの命名」

①  花丸をつけた取組アイデアについて、わかりやすく(できればカッコ良く)命名

② 「プロジェクト名記入シート」(青色の紙)に記入

39

ワークシートのイメージ(完成)

〇〇〇〇
プロジェクト

40

4. 全体ワーク

41

グループ発表

〇作成した模造紙(ワークシート)に基づいて話し合いの内容を発表

〇具体的には:

- ・どんな「島=取組アイデア」が出されたのか
- ・花丸がついた取組アイデア
- ・それを実現するために、誰がどんな役割を担うのか

〇1グループ〇分以内でお願いします!

42

全体討議

それぞれのワークシート(模造紙)を見て...

**追加したい
意見を書く**

- ・追加したいアイデア
- ・誰が、どんな役割を担うか
- ・感想、コメントでも可

...を書いて、そのワークシートに貼りつけ

43

5. 市民参加に関する情報提供

44

6. 主催者挨拶

45

参加者アンケート

今後の取組の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力をお願いします。

(1) 今回、市民参加ワークショップに参加することを決めた理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① テーマに興味があったから
- ② 自分の意見を述べたり、他人の意見を聞くことに興味があったから
- ③ 札幌市の政策や事業に活かされることを期待するから
- ④ 行政評価という取組に興味があったから
- ⑤ 参加謝礼品が提供されるから
- ⑥ その他 ()

(2) 今回の市民参加ワークショップの設定について、どのように感じられましたか？
5段階のうちあてはまるもの一つに○をつけてください。

・回数について（2回実施）

- ①1回が良い ②2回が良い ③3回が良い ④4回以上が良い
- | | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
|--|--|--|--|

・議論の時間について

- ①長い ②やや長い ③ちょうどよい ④やや短い ⑤短い
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

(3) 今回の市民参加ワークショップに参加した満足度について、あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ①満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

裏面に続きます。

((3)で「満足」または「やや満足」と答えた方にお尋ねします)

どのような点に満足されましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 札幌市の取組について理解を深めることができた
- ② 札幌市の取組について他の市民参加者と意見交換することができた
- ③ テーマに関する疑問を札幌市の担当者に聞くことができた
- ④ 札幌市の行政評価を行う過程に参加することができた
- ⑤ その他 ()

((3)で「やや不満」または「不満」と答えた方にお尋ねします)

どのような点に不満を感じましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 札幌市の取組が十分に理解できなかった
- ② 札幌市の取組について十分に意見交換することができなかった
- ③ テーマに関する疑問が解消されなかった
- ④ 札幌市の行政評価の取組として行っている意義が十分に理解できなかった
- ⑤ その他 ()

(4) 今回のワークショップは土曜日に開催しました。今後、このような取組にあなたが参加される場合、何曜日の開催が望ましいでしょうか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- ① 平日が良い ② 土曜日が良い ③ 日曜日が良い ④ 何曜日でも構わない

(5) ワークショップの取組全体を通して、より多くの方にご参加いただけるワークショップにしていくための工夫・アイデアなど、ご意見、ご感想がございましたらお書きください。

最後に、あなた自身について、あてはまるものに○をつけてください。

- (1) 性別 ① 男性 ② 女性
- (2) 年代 ① 10歳代 ② 20歳代 ③ 30歳代
 ④ 40歳代 ⑤ 50歳代 ⑥ 60歳代 ⑦ 70歳代以上

ご協力ありがとうございました。

SAPPORO

平成30年度 札幌市行政評価 外部評価報告書

発行 札幌市 総務局 改革推進室
〒060 - 8611 札幌市中央区北1条西2丁目
電話 011 - 211 - 2061
FAX 011 - 218 - 5194
URL <http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/>



さっぽろ市
01-A02-18-2440
30-1-184